

中学生文化 ～マルチ・メディアとのかかわり～

目次

特集●中学生文化をどうとらえるか	深谷昌志	2
調査レポート●中学生文化	深谷昌志	8
調査実施にあたって		8
サンプルと要約		9
第Ⅰ章 マルチ・メディアの中で育つ		11
1. 生徒たちが熱中するもの		11
2. マルチ・メディアの重み		19
第Ⅱ章 マルチ・メディアとのかかわり		23
1. マルチ・メディアへのアクション		23
2. マルチ・メディアと主体性		29
第Ⅲ章 マルチ・メディアと自己評価		32
1. 服装の崩れ		32
2. 行動面からのタイプ分け		35
3. 自己評価とのかかわり		43
資料1 調査票見本		49
資料2 学年・性別集計表		66

※おことわり 本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

特集

中学生文化をどうとらえるか

—虚像と実像との谷間に—

放送大学教授

深谷昌志



素顔をとらえにくい

素顔の中学生を語れといわれて、自信を持ってコメントできる人は少なかろう。ある程度までつかまえることはできるが、いまひとつ焦点を合わせにくい感じがする。

たてまえというか、よそゆきというか、そ

うした顔とふだん仲間同士の間で見せる顔とが極端にちがう。もちろん、素顔そのものも3か月、半年単位で刻一刻と変貌していく。それだけに今日の素顔が明日に連続していない。

こうした中学生理解のむずかしさが、マスコミの誇張したレポートと中学生の実像との

間に大きな溝を作る。ひとりひとりの中学生を見ていると、ごく素直でよい子たちなのだが、マスコミに登場してくる中学生は、ツッパっていたり、あるいはガリ勉のかたまりだったりして、平均的な姿との間に異和感が残る。そこで性を手がかりとして、虚像と実像とのギャップをうめてみよう。

片思いのレベルが圧倒的

週刊誌やテレビなどに接していると、中・高校生たちの性行動が乱脈をきわめているような印象を受ける。しかし、程度の差のようにも思うが、非行のなかで、性にからむ問題の比率は、さいわいなことにさほどの増加を示していない。

もちろん、第二次性徴は早まっており、初潮を例にするなら、小学校5年生までの35%を含めると、半数近い子どもたちが、小学校のうちに初潮体験者となる。

しかし、初婚年齢は年々やや遅まり、女性の場合24歳が平均の数値であるから、これを一応の基準とすれば、女の子たちは女性としての意識を早く植えつけられながら、10年以上も結婚を待つ生活を送らねばならない。したがって、こうしたギャップに伴う悩みは当然のことながら増加しよう。

日本青少年研究所の実施した「日米高校生比較調査」(昭和54年)によれば、アメリカの高校生の63%は、「2人だけでデートをする相手」を持ち、59%は「自分の生き方やものの見方が大きく変わらるような恋愛」を体験しているが、日本の高校生の場合、デート率は37%、恋愛体験率が18%にとどまっている。

ステディな相手のいるほうが普通のアメリカと、異性の友を持つほうがまれな日本という対比があざやかだが、念のために、もうすこし細かく日本の状況を紹介しておこう。

すでにこのモノグラフ・シリーズでは、性

についての生徒たちの反応を調べたいと、何回かの調査・分析を行っている。その中のひとつである関東・中部地区の中学生約2,000名を対象にした調査によれば、

	男子	女子
①ステディな相手のいる生徒	7%	7%
②片思いの相手のいる生徒	32%	46%
③片思いの相手がほしい生徒	15%	18%
④まったく関心のない生徒	46%	29%

となる。

つまり、大半の子どもたちは片思いの相手のいる状態で、こうした片思いを両思いに発展させることができた生徒は7%にとどまっている。

「素敵だ」と心をときめかす対象はいるが、一方通行の片思いの状況というのが、中学生のほぼ標準的な心の内のように思える。それでは、高校生の場合はどうか。全国の高校生約4,000名を対象にした調査では、

	男子	女子
①両思いの相手がいる	14%	18%
②片思いの相手がいる	25%	27%
③関心のある異性はいる	29%	30%
④関心のある異性はない	32%	25%

の結果が得られている。

ステディな関係を持つ高校生がほぼ16%と、さすが中学生よりその比率が倍増しているが、過半数は片思いの状況にある。

もっとも、両思い率には学校差が大きく、同じ県立の共学校でも、数パーセントレベルの学校から3割近いところまで、立地条件や生徒の質などを反映して、さまざまな状況が見受けられる。

しかし、いずれにせよ、片思いの生徒が大半を占める状況には変わりはなく、実際の対異性行動についても、「今までに、一度も、こうしたことを行ったことがない」割合は以下のとおりの数値を示している。

女子の中に	両思い	片思い
①プレゼントをする	16%	57%
②喫茶店で話す	17%	71%
③持ち物を交換する	49%	80%
④夜中に長電話をする	49%	82%
⑤将来を話し合う	68%	95%
⑥いっしょに勉強する	82%	96%
⑦腕を組んで歩く	41%	86%
⑧キスをする	66%	95%
⑨泊まりがけの旅行をする	95%	99%
⑩同伴喫茶へ行く	94%	99%
⑪ラブホテルへ行く	95%	100%

両思いの相手のいる生徒でも、喫茶店でしゃべったり、夜中に長電話をしたり、持ち物を交換する程度が、異性とのつき合い方で、同伴喫茶やラブホテルへ行ったことのある生徒は、両思いの相手のいる生徒の中で5%（全体のなかで1%）、しかも、常習者といえそうな者は、さらに、その3分の1程度となる。

ロマンの香りのあるつき合いを

もちろん、今までふれてきたデータについて、若干の疑問は残る。いくら無記名であっても、キスやラブホテルのような内容を、生徒が素直に語ってくれたかが、その一例である。

調査担当者としては、生徒たちのホンネを引き出すために、調査票にさまざまな配慮を加えたつもりだが、数値が多少低まるることは予想されよう。また、本調査が、進学率の面で中位以上の普通科高校を対象にしているので、実業高校や就職者の多い高校をサンプルに含めれば、キス率などが高まる可能性も強い。

そうはいっても、このサンプルは特別の進学校ではない、ごく普通の高校で、しかもその他の項目について、生徒たちはありのままに飾らずに答えてるので、かなりの信頼度

を確保していると思われる。

中・高校生たちの異性との接触が、予想以上に片思いのレベルにとどまっているのは、すでにふれたとおりだが、それでは、現実はともあれ、生徒たちはどういう願いを持っているのか。

「ぜひ」あるいは「できれば」そうしたいと思っている割合を、男女別に集計すると、以下のとおりとなる。

	男子	女子
①プレゼントをする	73%	91%
②喫茶店で話す	71%	77%
③いっしょに勉強する	48%	62%
④腕を組んで歩く	58%	49%
⑤持ち物を交換する	40%	45%
⑥将来を話し合う	32%	34%
⑦キスをする	58%	31%
⑧夜中に長電話をする	26%	26%
⑨泊まりがけの旅行をする	47%	22%
⑩同伴喫茶へ行く	30%	10%
⑪ラブホテルへ行く	29%	5%

さすがに、男子のほうに、キスや泊まりがけの旅行など、直接的な行為に対する願望が強い。

しかし、男子も含めて、とくに女子の間に定着している願いは、「恋人ができたら、喫茶店で話したり、腕を組んで歩いたり、プレゼントの交換をする」というような、ロマンの香りのただよう交際のスタイルである。なかでも女子の間には、同伴喫茶やラブホテルへは、「ぜったいに行きたくない」者が、それぞれ54%、79%を占める。

実際的な行為はいやだが、カッコのよい男の子とペアルックを着て、しゃれた町を歩いてみたいのが女子たちとするなら、それも悪くはないが、キスぐらいはしたいし、できたら泊まりがけの旅行もしたい、が男子となる。

なんとなく高校生たちの気持ちのわかるデータで、思春期の心は、昔も今も、さほど変わらないようにも思える。しかし、ロマンとしての恋愛に対するあこがれの気持ちは強く、将来の結婚のスタイルについても、

	男子	女子
恋 愛	ぜったい 44%	39%
	できれば 53%	57%
	(小計) (97%)	(96%)
見合い	できれば 2%	3%
	ぜったい 1%	1%
	(小計) (3%)	(4%)

のとおり、恋愛派が95%を超える。

なお、「高校生としては、どんなに相手が好きになっても、肉体関係まで進まないほうが望ましい」の意見を提示して賛否を求めたところ、高校生たちは以下のように答えていく。

	男子	女子
①とても賛成	12%	4%
②やや賛成	14%	8%
③半分半分	29%	20%
④やや反対	22%	22%
⑤とても反対	23%	46%

「望ましさ」を問題にしているから、好きな人ができたときに、理想どおりの行動をとるかどうかは保証できない。しかし少なくとも男子の5割弱、女子のほぼ7割が、高校生の間は、「どんな好きな相手でも」肉体関係へ入るのは望ましくないと思っているのはたしかであろう。

もっとも両思いの相手ができると、肉体関係へ進むのはやむを得ないと考える者が、女子で43%、男子で34%に達する。したがって、一見したところガードの固そうな生徒たちの反応は、具体的な対象が存在していない段階でのもので、両思いの相手ができるともろく崩れ去る可能性を否定できない。

その反面、両思いの相手のいる場合、

	男子	女子
A 肉体関係へ進んでもよい	34%	43%
B ラブホテル経験者	7%	5%
B/A	2割	1割

となるから、無軌道へ走る割合は、それほど多くないとも考えられる。

異性にモテそうにない

マス・メディアを通して、性についての情報がはんらんしている。そうした影響が、中・高校生たちの心をむしばんでいるのでは、と懸念していた。しかしデータを通してみる限りでは、両思いの相手がいても、腕を組んで町を歩くか、せいぜいキスをする程度で、それ以上に進むつもりはない、が高校生の異性とのつき合い方であった。

もちろん、数パーセントながら、異性と密接な関係を持ち、ラブホテルなどを利用している高校生の姿が見られる。しかし、全体としては8割以上が片思いの段階で、見方によれば、勉強に明けくれる禁欲的な生活を送っている。

週刊誌を開くと、ヌード写真がのっている。ビニ本もある。映画館の看板に、からみの状況が描かれている。テレビのドラマでも、ラブシーンはあたりまえとなつた。

こうした環境のなかで暮らしていれば、性についての情報が流れこんでこよう。それにしても、中・高校生たちの反応が、意外に健全のように思える。

家庭のなかで、日本の親たちは、父母としてふるまい、男女の感情をあからさまにしない。その結果、性に対してかなりきびしい抑制の文化が定着している。学校のなかでも、一定以上、異性とのつき合いが深まるのをタブー視する文化が浸透している。

こうした身のまわりの雰囲気がブレーキ役

を果たす形となって、いわば節度のあるつき合いのレベルにとどまっているのであろう。

もう一度、中学生を対象とした調査へ戻ると、図Aのようなデータがある。これは現実の自己像と、理想とする自己像との対比を示したものだが、異性にモテるようになりたいと思っている者が約9割。しかし、実際にモテると思っている子は1割にすぎない。つまり、異性に関心がありモテるようになりたいのだが、現実は暗い。その結果が片思いとなる。

ちなみに、図Aは「努力型」や「スポーツが得意」などの23項目を掲げて、自己評価を求めた調査の一部で、「モテたい」は、全体のなかで15位に位置する。「頭がよくなりたい」(92%)、「リーダーシップを持ちたい」(88%)などの項目が「モテたい」の前後に並んでいる。しかし、現実問題としての「異性にモテる」自信は最下位で、生徒たちのなかで、いちばん自信を持てないでいる項目となる。

女子の場合でいえば、「もう少し背が高くなりたい」が71%、「もう少しやせたい」が54%と、半数以上が、スラリとして長身なスリムな自分を夢みている。そして、毎日のように、入浴し、リンスをし、ヘア・ブラシを持って登校する女の子は6割を超える。しかし、自分のナウさに自信の持てる生徒は17%にとどまっている。

しあわせなマイホーム願望

中・高校生にとって、異性とのつき合いは、禁断の実に似て、手にふれたい気持ちは強いが、手にする機会も少ないし、自信も持てない。しかし、そうであるだけに将来の夢としての恋愛が、ことさら甘い響きを持ち始める。

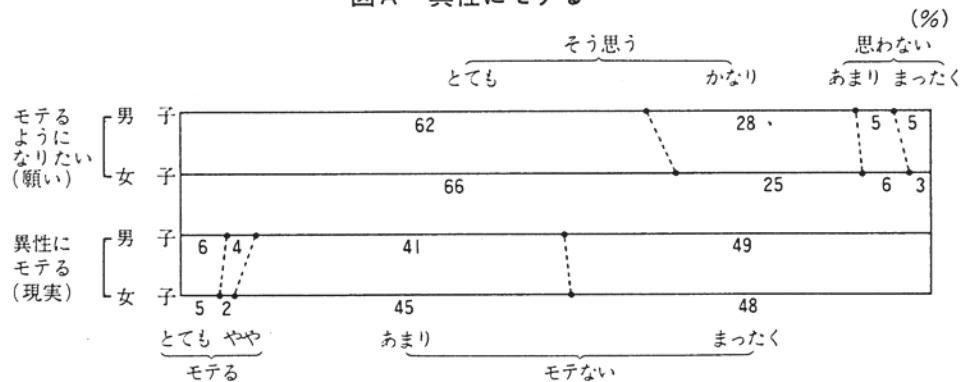
くわしい数値は省略したいが、中学生の女子を基準にすると、彼女らは22歳の頃、1~3歳年上の心のやさしい男性と恋愛結婚し、結婚と一緒に退職して、家庭を守りたいというイメージを抱いている。

「出産まで」の28%を含めて、専業主婦を志向する女子中学生が78%。また、女性にそうした生き方を望む男子が71%。さらに、「子どもは自分の手で育てたいから、仕事を持っていたらやめる」が81%（女子）、「やめほしい」が82%（男子）という数値もある。

夫は仕事にてて、妻は家庭を守るという、性に対応した役割分化を固定化した家庭像である。というより、家庭をつつむ雰囲気は表Aに示したように、むしろ保守的で、妻が尽くす形である。夫のために朝起きをし、弁当を作り、セーターやマフラーを編む妻を女子は志し、男子もそれを望んでいる。

もっとも、さすがに「妻が38度の発熱をしたら」会社を休む、が70%（男子）、休んで

図A 異性にモテる



ほしいが49%（女子）と、夫も家庭を大事にする生活を描いている。

なお、高校生のデータのなかから、彼らがイメージに抱く家庭生活を紹介すると、以下のとおりとなる。

- ①夫は手づくりの弁当を持っていく 86%
- ②子どもが生まれたら、パパ、ママに 84%
- ③子どもができたら、外出を控える 83%
- ④郊外の庭つきの家に住みたい 80%
- ⑤親せきとも親しく述べる 79%
- ⑥子どもの数は2人ぐらい 77%
- ⑦夫は家事を手伝わなくてもよい 75%
- ⑧子どもはきびしくしつける 70%

おとの世界では性差の縮小が進み、夫に近くす専業の妻はもはや少数派になりつつある。

現実感覚がないだけに、夢として家庭を語っただけで、将来彼らの思っているとおりの家庭が築けるとは思えない。しかし、夢ならば夢らしく、新しさがあつてもよいのにと思う。「仕事を持ち続けたい」と願う女子（18%）や「時には、夕食ぐらい作ってもよい」男子（15%）が、もっと多くなってほしい気

持ちがする。

性についてのふたをしめ、男女の隔離に専念してきた。性の乱れが少ないことを思うと、そうしたしつけは一応成功したといえよう。しかし、性的な役割分化や家庭のあり方などのものの見方がほとんど確立されていない。したがって性を即物的でなく、文化としてとらえる教育が、今後の課題となってこよう。

虚像と実像とのギャップ

性を手がかりとして中・高校生の姿をとらえると、上述した感じになる。マスコミで作り出した虚像との間に大きなギャップを感じられるが、こうした問題は性に限られていない。中学生たちの持ち物や行動の仕方、余暇の姿も、おとなたちのイメージするものと異なっている可能性が強い。ここではこうした問題意識から、中学生の素顔に迫りたいと思った。素顔の中学生をとりまくものをリアルに描きたいというのが、今回の調査目的である。果たしてうまくいかどうかは自信がないが、以下、中学生文化の検討に入っていこう。

表A 将来の家庭生活

(%)

		やってあげたい (やってもらいたい)		どちらとも いえない	やりたくない (やってもらいたくない)	
		とても	わりと		あまり	ぜったい
夫より早く起きて朝食の仕度をする	女子	58.4	32.8	6.0	2.0	0.8
	男子*	55.5	33.3	9.8	—	1.4
夫のために毎日お弁当を作る	女子	46.3	35.4	13.6	3.8	0.9
	男子*	43.9	27.4	27.3	0.5	0.9
夫が出勤する時、玄関まで見送る	女子	45.9	31.4	17.7	3.6	1.4
	男子*	29.6	21.9	41.4	4.4	2.7
夫の帰りが遅い時、夕食を食べずに待っている	女子	32.4	32.3	22.8	8.2	4.3
	男子*	19.1	16.0	46.1	13.1	5.7
夫のセーターやマフラーなどを編む	女子	29.9	32.5	24.0	9.0	4.6
	男子*	22.2	21.1	51.4	2.3	3.0

* 「やってもらいたい」数値

調査レポート

中学生文化

～マルチ・メディアとのかかわり～

放送大学教授 深谷昌志

調査協力者

東京学芸大学 岩谷めぐみ

佐々木登志美

笹森史子

小泉早苗

調査実施にあたって

中学生文化はとらえにくい。空気のように中学生のまわりをとりまいているものだが、おとの感覚でアプローチをすると、すぐにとびちってしまう。そうしたことを考え、今回の調査では東京学芸大学の学生4人にレポーターとなってもらい、さまざまな角度から中学生たちを取材してもらった。はじめの内は中学生をもう少し特殊な人たちと思ってしまい、ファンシーショップやファーストフード

の店などでの取材を頼むなど、学生たちに迷惑をかけた。

その内、ごくふつうの生徒として中学生をとらえるようになっていった。そうした中から、今回の調査票が作られていった。調査項目の中に新鮮なアングルがあるとしたら、そうした若い学生たちの作り出したものであろう。改めて、学生諸君の熱心な取材ぶりに感謝したいと思う。

サンプルと要約

1. 調査の目的――――――――――――――――――――――

中学生は、子どもからおとなへのメタモルフォーゼの年齢であるのに加え、中学生をとりまく状況が大きく変わり、それが中学生理解をむずかしくしている。今回の報告では、

中学生の現在を、とりまく状況に対する行動の仕方に関連させてとらえていくことにしたい。

2. 対象と調査時期――――――――――――――――――

今回の調査は、神奈川県、埼玉県、群馬県、青森県、広島県の5中学校（いずれも市部）

の中学生2,062名を対象に、昭和61年6～7月にかけて行われた。

〔調査概要〕

対象●神奈川県、埼玉県、群馬県、青森県、広島県の5中学校の1～3年生

期間●昭和61年6～7月

方法●学校通しによる質問紙調査

学年性	サンプル数			(人)
	1年	2年	3年	
男 子	373	465	212	1,050
女 子	330	475	207	1,012
計	703	940	419	2,062

3. 要 約――――――――――――――――――――

1) マルチ・メディアの中で育つ

(1) 中学生たちはテレビを見、音楽をきき、マンガを読むというようにマルチ・メディアの中で暮らしている。しかし、勉強だけは好きでないという（P.12表1）。

(4) よく読む
雑誌

男子…『週刊少年ジャンプ』

女子…『明星』

(P.15表4)

(2) 学年別データに着目すると、学年が上がるにつれてスポーツをする子が減り、ラジオをきく子が増え、それと同時に音楽好きが増加する（P.13表2）。

(5) 好きな人

男子…ビートたけし

女子…中森明菜

(P.17表7)

(3) よく見る
テレビ

●「天才・たけしの元気が出る
テレビ!!」

(P.14表3)

(6) 友だちの間に共通しているのは、「見て
いるテレビ」「読んでいる雑誌」。そうした
意味では、マルチ・メディアは友だち関係に
も入りこんでいる（P.20表9）。

(7) 生徒たちは勉強以外のことは、テレビな
どのマス・メディアを通して情報を手にし
ている（P.22表11）。

↓

テレビ、雑誌、ラジオ、ラジカセなどマルチ・メディアにかこまれて生徒たちは育っている。

2) マルチ・メディアとのかかわり

- (8) マンガとのつき合いは単行本を集めているか、テレビを見るくらい (P.24表13)。

- (9) 音楽についての行動も、ダビングするくらい (P.27表16)。

↓

しかし、マルチ・メディアとのつき合いで多い方は、自分から何かすることは少なく受身の形が多い。

3) 両極化の強まり

- (10) 行動面についての自己評価では、授業をまじめに聞いているつもりがトップで、その他の自信を持てない (P.36表22)。

- (11) 全体としてみると、中学生は外向的でマンガの好きな子ども型から、内向的で活字を目にする内省化へと移行していく。そうした中で、学業不振の生徒は自閉化の傾向を強め、成績の良い子は模範生らしさを増す (P.40図7・P.42図9)。

- (12) 中学生たちは勉強はともかく、友だちが多く心はやさしいと自己評価している (P.43表26)。

- (13) III類のサンプル・スコアによると、成績がふつうの生徒たちは、群れの中で部活動を心のよりどころとするが、むずかしい大学を目指す生徒は、孤立化の傾向を強め受験型の生活を送っている (P.48図13)。

↓

生徒たちはむずかしい大学を目指してマルチ・メディアに背をむける少数派と、マルチ・メディアに埋没する多数派とに両極化してくる。

4) まとめに

中学生たちはテレビ、マンガ、ラジカセ、ラジオなどのマルチ・メディアにかこまれ、はなやかな生活を送っているように見える。しかし、それは表面の姿で、実際は心から自分を託せる対象を見いだせずに、マス・メディアの中をただよっている不安定な生徒たちである。こうした中で、成績の良い子は目標を持った生活を送っているが、マス・メディアも、そしてパーソナル・メディアもたちきつた孤独な生徒である。

第Ⅰ章 マルチ・メディアの中で育つ



1. 生徒たちが熱中するもの

まず、中学生たちにどういうことをしている時が好きなのかをたずねてみた。結果は表1の通りで、「勉強をする」のは、とても好きとはいえないが、それ以外はテレビを見たり、マンガを読んだり、音楽をきいたりするのが好きだという。

こうした回答の中にも、映像メディアとしてのテレビ、音声メディアの音楽、活字メディアのマンガを生徒たちがたくさんに活用しているのがわかる。

もっとも表2（図1）の学年別集計によれば、そうしたマルチ・メディアとの接触は、学年によって多少の変化が認められる。図式化した指摘をするなら、スポーツ好きの1年生が2年生になるにつれて、テレビ好きとな

り、そして3年生では、スポーツやテレビを離れて、音楽への傾斜を強めるという軌跡である。

このように中学生たちは、映像、活字、音声のメディアを、その時に応じて使い分けて余暇の時間を過ごしているように見える。もちろんおとなの場合も、テレビを見、新聞を読み、そして時には、カラオケで歌うというあんばいに、マルチ・メディアとふれ合っているのだが、生徒たちはおとなたちの新聞や雑誌の代わりにマンガ、カラオケの代わりにウォークマンを活用するので、マルチ・メディアの内容はおとなとかなり異なってくる。

さらに、映像メディアとしてのテレビの特性は、おとなも中学生も変わりはないが、さ

すがに見ている番組はおとなと開きがみられる。表3に示したように、中学生のよく見ている番組の第3位までは、「天才・たけしの元気がでるテレビ!!」「オレたちひょうきん族」「北斗の拳」となる。そして、おとなたちの間で見る機会の多い「大岡越前」や「特捜最前线」の視聴率は2%を下回る。もちろん「天才・たけしの元気がでるテレビ!!」や「オレたちひょうきん族」はワースト番組といわれることが多く、こうした意味でテレビだけとってみても、中学生はおとなにとってはつまらないものに熱中する不可解な存在なのかもしれない。

そして、こうした不可解さは読んでいる雑誌の場合、さらに広がってくる。表4に示したように、読んでいる雑誌に男女差が大きいが、好きな雑誌のベスト3をあげると、以下の通りとなる。

男 子	女 子
1位 週刊少年ジャンプ(64%)	明星(50%)
2位 週刊少年サンデー(20%)	りほん(47%)
3位 マイコンの専門誌(19%)	なかよし(34%)

このところマンガを読む世代が上がってきて、30代なかばのマンガファンも珍しくない。こうした人たちにとっては、「ジャンプ好き」な子に異和感がないかも知れないが、仮に、中学生の親たちを40代前後とするなら、子どもを理解しにくいかもしれない。

なお、音楽を聞く割合は表5の通りで、学年が上がるにつれて、音楽好きが増え、半数近くの者は毎日のように音楽を聞く生活を送っている。そして、具体例を松任谷由実に求めると、表6のよう20代以上の若者に多いユーミン・ファンが、3年生の間で目につく。音楽の好みという点では、3年生はすでに若者の仲間入りをしているのであろう。というより3年の生徒たちは、ユース・カルチャー（若者文化）を引っぱり、そして作り出していく一翼を担っている可能性が強い。

こうした傾向は表7の好きな人にも表れており、男子はビートたけし、女子は中森明菜が人気を集め、以下、とんねるず、赤川次郎、小泉今日子とづく。これは人気タレントのコンテストではないので、さまざまな分野からのリストアップを心がけた。した

(表1) 好きなこと

→ テレビ、音楽、そしてマンガ

尺度 項目	(%)				
	とても好き	わりと好き	ふつうぐらい	あまり好きでない	むしろきらいなほう
テレビを見る	(43.0)	32.1	21.8	2.3	0.8
音楽を聞く	(40.4)	28.8	20.6	6.7	3.5
マンガを読む	(39.4)	27.2	22.9	7.5	3.0
スポーツをする	30.2	(30.4)	27.7	8.4	3.3
ラジオを聞く	17.7	26.7	(32.8)	17.0	5.8
勉強をする	1.1	6.8	(37.6)	35.7	18.8

がって大づかみにすれば、明石家さんまや片岡鶴太郎などといった生徒たちに人気のありそうなタレントはビートたけしと同じであると考えて省略したが、こうした人たちを加えると、人気者の上位にタレントが顔を揃えることはたしかであろう。

いずれにせよ、若者に人気のありそうな糸

井重里や椎名誠、久米宏などが、予想した以上に中学生の間で好感を持たれていなかった。もっとも、表8によるとビートたけしや中森明菜は、属性を越えて広く生徒たちから好かれている。

そうした意味で大づかみにすると、ビートたけしや中森明菜は糸井重里や久米宏に代表

(表2) 好きなこと×学年

→スポーツ(1年)から音楽・ラジオ(3年)へ

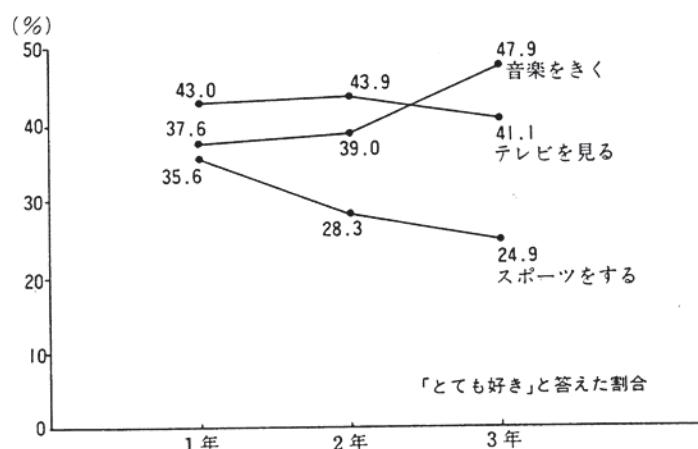
(%)

学年 項目	1年	2年	3年
テレビを見る	43.0	< (43.9)	> 41.1
音楽を聞く	37.6	< 39.0	< (47.9)
マンガを読む	37.8	< 39.4	< (41.5)
スポーツをする	(35.6)	> 28.3	> 24.9
ラジオを聞く	15.3	< 18.6	< (19.5)
勉強をする	1.1	1.2	0.7

「とても好き」と答えた割合

(図1) 好きなこと×学年

→3年の半数は音楽好き



されるようなユース・カルチャーにまだくみこまれていないが、(ロー) ティーン・カルチャー(10代の文化)を担っていると要約で

きよう。

なお、図2によると、中学生の中でもむずかしい大学を目指す者に中森明菜を「きらい」

(表3) いつも見ているテレビ

→「天才・たけしの元気が出るテレビ!!」と「オレたちひょうきん族」

(%)

項目	属性	全 体	1 年	2 年	3 年	男 子	女 子
1	天才・たけしの元気が出るテレビ!!	20.6	13.4	26.3	19.6	23.9	17.2
2	オレたちひょうきん族	19.9	16.5	23.1	18.2	18.9	20.8
3	北斗の拳	13.7	15.1	11.6	16.0	18.1	9.0
4	夜のヒットスタジオデラックス	12.6	10.9	12.5	15.5	11.7	13.3
5	世界まるごとHOWマッチ	10.3	10.1	10.4	10.5	12.9	7.7
6	プロ野球	8.7	9.6	8.1	8.8	13.4	3.9
7	夕やけニャンニャン	7.4	5.4	8.0	9.4	9.5	5.3
8	6時半頃のニュース	7.0	6.6	6.4	8.9	8.7	5.2
9	月(金)曜ロードショー	5.1	2.8	7.6	3.4	6.6	3.6
10	クイズ・100人に聞きました	4.3	4.1	4.5	4.4	4.5	4.2
11	女子プロレス	3.8	4.1	3.9	2.9	2.8	4.7
12	ベストヒットUSA	3.3	2.5	3.5	4.4	3.8	2.8
13	キン肉マン	2.9	2.9	2.7	3.4	4.8	1.0
14	夜11時頃のニュース	2.3	1.6	2.3	3.4	3.5	1.0
15	トウナイト	1.9	1.2	1.7	3.2	3.1	0.6
16	大岡越前	1.8	1.2	1.5	3.4	2.2	1.3
17	オールナイトフジ	1.7	1.2	1.6	2.4	2.5	0.8
18	特捜最前线	1.6	2.0	1.4	1.5	2.4	0.8
19	Y O U	1.2	1.0	1.0	2.0	1.6	0.8
20	英語会話I	1.0	1.2	0.9	1.2	1.4	0.7

「毎週必ず見ている」割合

が目につく。そしてそう思ってみると、表8のピートたけしについても「きらい」がむずかしい大学を目指すタイプの中で14%を占め

ているのがわかる。

大学に入ろうと頑張っている生徒たちにとっては、自分たちがまじめに勉強しているの

(表4) 読んでいる雑誌

→男子は『週刊少年ジャンプ』、女子は『明星』

(%)

項目	属性	全 体	1 年	2 年	3 年	男 子	女 子
1	週刊少年ジャンプ	40.7	39.6	43.0	37.5	(64.2)	16.5
2	明 星	32.9	30.8	33.4	35.1	18.4	(49.8)
3	り ば ん	24.3	24.5	26.5	19.1	2.7	(46.6)
4	な か よ し	17.9	19.4	18.9	13.4	2.5	(34.0)
5	中学○年コース	14.1	12.8	14.9	14.1	10.2	18.0
6	趣味の専門誌	12.9	10.4	14.8	12.9	16.3	9.4
7	週刊少年サンデー	12.7	9.7	13.2	16.7	(20.0)	5.1
8	レ モ ン	12.5	3.4 < 15.6 < 20.5			2.0	(23.3)
9	マイコンの専門誌	9.8	8.8	10.9	9.3	(18.5)	0.9
10	近 代 映 画	9.5	7.4	10.9	9.8	7.1	12.0
11	週刊マーガレット	9.3	8.7	10.0	8.8	2.1	16.8
12	中 ○ 時 代	8.7	9.1	8.5	7.9	6.8	10.5
13	サッカーマガジン	7.1	7.0	6.9	7.6	(12.9)	1.1
14	週刊少女フレンド	6.9	6.1	7.1	7.6	1.6	12.4
15	N H K 基礎英語	6.2	10.7	4.1	3.6	6.0	6.5
16	オ ー ト バ イ	6.0	3.8 < 6.0 < 10.0			(10.3)	1.7
17	ブ チ セ ブ ル	5.5	2.6	6.7	7.6	1.5	9.6
18	F M レ コ バ ル	4.1	2.1	4.7	5.7	6.4	1.6
19	週刊ベースボール	3.6	4.1	3.4	3.3	5.9	1.3
20	ボ バ イ	2.9	1.7	3.0	4.5	4.2	1.5

に、タレントたちはふざけて遊びまわっている、というような気持ちから反発するのであろうが、なんとなく気になる傾向のように思

える。しかし、そうした考察はのちに加えることとして、論を先に進めてみたい。

(表5) 音楽をきく×学年

→たまに(1年)から毎日(3年)へ

(%)

学年	尺度	ほとんど きかない	たまにきく	1週間に1日 ぐらいきく	1週間に2~3日 ぐらいきく	毎日の ようにきく
1年		18.6	28.8	8.9	16.9	26.8
			▽			△
2年		12.2	23.2	8.0	20.7	35.9
			▽			△
3年		6.9	21.2	7.4	16.2	48.3
全 体		13.3	24.7	8.2	18.5	35.3

(表6) 松任谷由実などのニューミュージック

→学年が上がるとニューミュージック好きに

(%)

属性	尺度	とても好き	かなり好き	ふつう	やや きらい	とても きらい
学年	1年	8.2	9.7	41.1	17.5	23.5
	2年	10.7	11.5	45.6	15.4	16.8
	3年	14.1	14.1	51.0	11.7	9.1
性	男 子	7.3	8.7	42.0	17.4	24.6
	女 子	13.9	14.2	48.6	13.2	10.1
進路	高 校	8.5	10.3	45.0	15.7	20.5
	短 大	13.1	13.1	49.9	12.5	11.4
	大 学	10.8	11.3	44.2	17.1	16.6
	むずかしい大学	9.7	13.0	37.3	16.2	23.8
全 体		10.6	11.4	45.2	15.3	17.5

(表7) 好きな人

→女子は中森明菜、男子はピートたけし

(%)

		好き		あまり好きでない	きらい	その人を知らない	性		学年		
		とても	まあ				男子	女子	1年	2年	3年
1	中森 明菜	30.4	31.2	18.6	17.6	2.2	16.0	45.2	29.2	31.9	29.0
2	ピートたけし	30.3	40.5	17.8	10.6	0.8	35.1	25.1	26.3	32.8	31.1
3	とんねるず	25.2	34.1	19.4	19.7	1.6	26.1	24.2	25.3	28.1	18.3
4	赤川 次郎	15.3	24.4	24.4	18.0	17.9	7.4	23.4	12.9	15.3	19.3
5	小泉 今日子	15.0	29.8	26.0	26.6	2.6	10.9	19.2	12.2	16.2	16.9
6	薬師丸 ひろ子	12.1	30.9	30.4	23.6	3.0	5.6	18.8	10.7	14.1	9.9
7	本田 美奈子	11.7	22.1	24.8	36.4	5.0	8.3	15.0	11.6	12.9	9.0
8	少年隊	10.4	28.3	29.8	28.1	3.4	3.9	17.0	7.8	12.2	10.6
9	古館 伊知郎	8.5	22.6	26.1	22.3	20.5	11.6	5.3	8.2	8.8	8.2
10	松任谷 由実	7.5	18.1	26.9	23.7	23.8	3.8	11.2	5.4	9.0	7.2
11	江川 卓	6.7	13.2	26.7	45.3	8.1	11.0	2.4	7.3	7.1	5.1
12	タモリ	5.9	31.4	32.0	29.3	1.4	7.8	3.9	5.5	6.5	5.1
13	原辰徳	5.9	15.8	31.4	38.5	8.4	8.5	3.3	8.1	4.5	5.6
14	久米 宏	4.8	17.2	31.8	33.7	12.5	6.8	2.8	5.4	4.4	4.8
15	大橋 巨泉	3.9	14.6	31.8	42.5	7.2	7.1	0.7	4.8	3.5	3.4
16	中曾根 康弘	3.6	8.1	32.2	51.5	4.6	5.4	1.7	3.5	3.6	3.6
17	愛川 鈦也	3.3	14.0	36.1	38.9	7.7	5.3	1.3	4.2	2.9	2.9
18	糸井 重里	2.3	5.1	15.5	24.6	52.5	2.6	1.8	0.7	2.4	4.3
19	椎名 誠	1.5	5.1	20.5	24.5	48.4	2.2	0.7	0.9	1.5	2.4
20	郷 ひろみ	1.3	4.3	26.3	64.9	3.2	1.5	1.0	0.7	1.2	2.4

性、学年は「とても好き」の割合

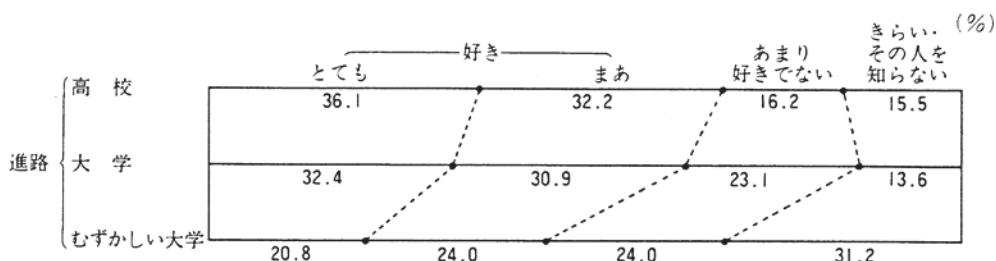
(表8) 中森明菜とビートたけし×属性

→ヒーローは属性を越えて

			好 き		あまり 好きで ない	きら い	その人 を 知ら ない	(%)
			と ても	ま あ				
ビ ー ト た け し	学 年	1 年	26.3	38.9	20.5	13.9	0.4	
		2 年	32.8	41.4	15.9	8.6	1.3	
		3 年	31.1	41.9	17.1	9.4	0.5	
	性	男 子	35.1	42.9	12.1	8.4	1.5	
		女 子	25.1	38.3	23.7	12.8	0.1	
	進 路	高 校	31.4	39.0	18.0	10.9	0.7	
		短 大	29.4	39.8	18.5	11.5	0.8	
		大 学	30.7	43.4	16.3	8.6	1.0	
		むずかしい大学	28.5	38.3	17.6	14.0	1.6	
	部活動	入っていない	26.2	44.3	14.8	9.8	4.9	
		運動部	30.5	42.1	16.6	10.2	0.6	
		サボる	33.9	38.6	18.0	8.8	0.7	
		文 化 部	25.6	38.8	20.9	14.7	0	
中 森 明 菜	学 年	1 年	29.2	26.2	20.4	21.0	3.2	
		2 年	31.9	30.8	17.9	17.8	1.6	
		3 年	29.0	40.1	17.4	12.1	1.4	
	性	男 子	16.0	28.6	25.8	25.7	3.9	
		女 子	45.2	33.6	11.3	9.5	0.4	
	進 路	高 校	36.1	32.2	16.2	14.4	1.1	
		短 大	36.5	35.2	13.6	13.4	1.3	
		大 学	32.4	30.9	23.1	10.5	3.1	
		むずかしい大学	20.8	24.0	24.0	28.1	3.1	
	部活動	入っていなし	25.0	30.0	20.0	18.3	6.7	
		運動部	29.2	30.8	20.7	17.4	1.9	
		サボる	31.2	32.2	17.2	17.7	1.7	
		文 化 部	34.0	30.4	15.4	18.7	1.5	

(図2) 中森明菜が好き×進路

→進学者は明菜がきらい



2. マルチ・メディアの重み

これまでふれてきたように、中学生たちはマルチ・メディアにかこまれつつ、ティーン・カルチャーを形成している。

そこで問題となるのは、一人ひとりの生徒たちがマルチ・メディアに接しているのはたしかだが、そうしたふれ合いが、生徒たちの間でどの程度の意味を持っているかであろう。

表9は、友だちの間でどんな面が共通するのかをたずねた結果だが、生徒によると好きな異性のタイプはむろん、好きな教科や進路は一致していないという。しかし、見ているテレビ番組や雑誌は、友だちとの間で一致していることが多いという。「夜のヒットスタジオデラックス」を見て、『明星』を読んでいる仲間集団。あるいは、「北斗の拳」を欠かさず見ると同時に『週刊少年ジャンプ』のファンを共通項として成り立っている集団などが、その典型であろう。

そして、表10によると、テレビや雑誌を媒介とした友だち関係という構図は、学年や性を越えて、生徒たちに普遍的に認められる。

こう見えてくると、マルチ・メディアは、一人ひとりの生徒に影響を与えていくだけではなく、生徒たちの群れもマルチ・メディアぬきでは成り立ちにくい状況がうかんできたようと思える。

実際にも表11によれば、どういう形で情報を入手するかについて、次のような3つのタイプがみられる。

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ①ほとんどをマス・メディア (75%以上) | 1 天気予報 (91%) |
| | 2 社会のできごと(85%) |
| | 3 スポーツの結果(82%) |
| | 4 歌手の新曲 (75%) |

- | | |
|----------------------|----------------|
| ②大半をマス・メディア (50~74%) | 1 映画 (69%) |
| | 2 スターのうわさ(68%) |
| | 3 ヘアスタイル(67%) |
| | 4 ギャグ (56%) |

- | | |
|--------------------------|----------------|
| ③ほとんどをパーソナル・メディア (49%以下) | 1 参考書 (32%) |
| | 2 高校のランク (23%) |

()内の数字はマス・メディアの割合

表中にも注記したように、この場合マス・メディアとは、テレビ、ラジオ、雑誌、新聞を意味しており、パーソナル・メディアは家人、クラスメート、部活動の友だち、先生を含んでいる。そして、こうした項目を手がかりにすると、生徒たちは、地元の高校のランクといった個別の問題を除くと、テレビ

やラジオなどのマス・メディアを情報源としていることがわかる。

もっとも世の中の動きから、歌手の新曲、スポーツの結果、スターのゴシップまで、現代の情報はマス・メディアを媒介として伝達されるから、生徒たちのマスコミ依存度が高いのもおとながそうであるように、ある程度まで当然の結果なのであろう。

さらに、表12によればマスコミに対する信頼は、情報の入手に限らず買物をするときに

も見受けられ、なにか物を求めるとき、マスコミの情報は、友だちなどの身近な人の意見と同じ程度に参考にしているという。

そう考えてみると、生徒にとってマルチ・メディアは、テレビを見たり、ラジオをきいたり、マンガを読んだりといった形で、たいへんつをまぎらわしたり、余暇の対象となるだけでなく、同じ情報を持つことによって友だちの輪が育つといったように、友だちとの仲を支える接着剤の役割を果たしている。さら

(表9) 友だちの間に共通するもの

→ テレビと雑誌

項目	尺度	(%)					
		まったく 同じ	だいたい 同じ	すこし ちがう	かなり ちがう	まったく ちがう	
1 見ているテレビ番組	6.3 52.8	46.5		33.0	7.6 14.2	6.6	
2 読んでいる雑誌	13.0 48.0	35.0		25.6	13.7 26.4	12.7	
3 好きな教科	8.7 34.2	25.5		32.0	15.8 33.8	18.0	
4 好きな歌手	9.4 33.0	23.6		29.1	17.0 37.9	20.9	
5 好きなマンガ家	7.7 32.7	25.0		32.9	17.2 34.4	17.2	
6 進みたい高校	11.2 32.4	21.2		30.8	15.3 36.8	21.5	
7 食べものの好み	4.3 31.1	26.8		44.4	15.9 24.5	8.6	
8 好きな異性のタイプ	8.6 27.1	18.5		27.1	17.4 45.8	28.4	

Q. あなたのいちばん仲良しの友だちのことを考えてください。その友だちとあなたとは、次のような点で一致していますか。

に、大事な情報源であると同時に、買物などのさまざまな行動に影響を与えるエージェンシー（機関）のような役割を果たしている。

マルチ・メディアは、メディアがマルチ化しているだけでなく、生徒に与える影響もマルチ化している印象を受ける。

(表10) 友だちとの一致×属性

→属性を越えて

			(%)				
			まったく同じ	だいたい同じ	すこしがう	かなりがう	まったくがう
見て いる テ レ ビ 番 組	学 年	1 年	6.0	44.6	34.4	7.3	7.7
		2 年	6.6	47.9	31.1	8.5	5.9
		3 年	6.0	46.5	35.2	6.0	6.3
	性	男 子	7.3	44.0	32.5	8.3	7.9
		女 子	5.2	49.1	33.7	6.8	5.2
	進 路	高 校	6.3	45.5	36.5	6.1	5.6
		短 大	7.6	49.8	30.1	6.8	5.7
		大 学	5.4	47.2	33.0	8.5	5.9
		むずかしい大学	6.3	43.6	29.5	9.5	11.1
読 ん で い る 雑 誌	学 年	1 年	15.0	31.6	23.9	14.1	15.4
		2 年	13.1	36.9	24.9	14.5	10.6
		3 年	9.2	37.4	29.5	11.1	12.8
	性	男 子	15.1	35.3	22.8	12.7	14.1
		女 子	10.6	35.3	28.3	14.6	11.2
	進 路	高 校	10.1	34.4	28.9	13.7	12.9
		短 大	15.2	34.6	25.1	13.3	11.8
		大 学	13.5	35.6	25.5	14.0	11.4
		むずかしい大学	15.3	36.6	19.0	14.3	14.8

(表11) 情報の入手先

→勉強以外のことばはテレビを通じて

(%)

項目	尺度	テレビ から	ラジオ から	新聞 から	雑誌 から	家人 から	クラスの 友だち から	部活動の 友だち から	先生 から	マス・ メディア	パソ ナル・ メディア
1 天気予報	(83.1)	4.1	3.7	0	6.4	2.0	0.2	0.5	90.9	9.1	
2 スポーツの試合結果	(64.3)	3.9	13.0	0.8	6.5	9.5	1.6	0.4	82.0	18.0	
3 社会のできごと	(62.6)	2.2	19.2	0.9	8.6	2.6	0.5	3.4	84.9	15.1	
4 スターのうわさ	(49.3)	2.6	3.7	12.2	2.1	26.8	2.6	0.7	67.8	32.2	
5 歌手の新曲	(46.9)	14.7	0.6	13.2	1.6	19.9	2.8	0.3	75.4	24.6	
6 おもしろいギャグ	(46.8)	2.8	0.3	5.7	1.7	36.5	5.3	0.9	55.6	44.4	
7 おもしろい映画	(37.9)	1.4	8.8	20.4	2.3	25.5	3.2	0.5	68.5	31.5	
8 流行のヘアスタイル	24.2	1.7	1.7	(39.3)	3.5	25.4	3.5	0.7	66.9	33.1	
9 力のつく参考書	9.0	1.4	1.9	20.0	24.8	(26.3)	2.8	13.8	32.3	(67.7)	
10 高校のランク	8.3	0.8	5.9	7.9	(27.7)	23.0	4.6	21.8	22.9	(77.1)	

→あなたは、次のようなことをいちばんはじめに何を通して知ることが多いですか。

(表12) 買物のとき、参考にするもの

→友だちと同じようにCMも参考にして

(%)

	(1) カセットテープやレコード			(2) スポーツ用品		
	非常に 参考に する	かなり 参考に する	小計	非常に 参考に する	かなり 参考に する	小計
テレビやラジオなどのCM	13.5	14.2	27.7	10.6	13.2	23.8
雑誌や新聞の記事	8.8	14.8	23.6	9.5	14.5	24.0
専門の雑誌や専門店の人の意見	9.6	14.0	23.6	17.0	23.8	40.8
友人の間でのうわさ	11.7	25.1	36.8	13.1	25.8	38.9
親やきょうだいの意見	7.4	13.6	21.0	9.7	19.9	29.6
学校の先生の意見	3.6	5.7	9.3	5.6	9.4	15.0

第II章 マルチ・メディアとのかかわり



1. マルチ・メディアへのアクション

朝、セットしておいたラジカセに電気が入り、音楽をBGMとして目をさます。そして夜は、勉強した後、ぼんやりマンガ雑誌のページをめくりながら、ウォークマンに聞き入って、就寝までの一刻を過ごす。

前章でふれたマルチ・メディアの中での成長とは、こうした状況を指すのであろうが、ここでは生徒たちが、マルチ・メディアとどのようなかかわり方をしているのかを考えてみたいと思う。

マス・メディアが登場して以来、ワンウェイ（一方通行）論がマス・メディアの弊害として説かれてきた。巨大化したマス・メディアが、一方的に情報を流し、受けとめ手としての大衆はフィードバックする手段を持たな

いので、人々がマスコミに操作されるという指摘である。それに対し、ラザースフェルドのオピニオン・リーダー論に示唆されているように、大衆は一方的に説得されるのではなく、頼りになる人を媒介として、ワンクッションをおいた形でマスコミに接しているとの見方もみられる。

換言するなら、マルチ・メディアの渦巻く状況の中で、生徒たちがどの程度の主体性を保っているのかを明らかにしたいのだが、表13に目をとめて欲しい。

これは、マンガについての行動を調べたものだが、マークした最頻値をみていただくとわかるように、生徒たちがマンガについて積極的な反応を示していないのが目につく。マ

ンガのイベントに参加する、同人誌に投稿する、自作のマンガを描くなど、アクティブな反応を見せている生徒は、少数の例外にすぎない。そしてしていることは、アニメ化されたテレビを見るか、単行本を集めることくらいだという。

良いといえば、マスコミに操られることなく、理性の利いた行動をしていることになるし、つき放した見方をすると、積極的に行動することなく与えられるままに、マンガを気晴ら

しの対象として時を過ごしているとなる。

なお、表14（図3）によると、学年が上がるにつれて、アニメ雑誌やキャラクター商品を持つ子の割合が減る。といっても、マンガを読むこと自体はそれほど変化しないのであるから、学年が上がるにつれて、あるマンガだけは見るけれども、それ以上は積極的にマンガにかかわらないといった受身的なマンガとのつき合い方が増加してくるのであろう。

マルチ・メディアと接してはいるが、自分

(表13) マンガについての行動

→ 単行本を集めることか、テレビを見るくらい

項目	尺度	(%)				
		よくする	わりとする	まるする	あまりしない	ぜんぜんしない
1 アニメのイベントに参加する	1.4	0.7	2.4	11.9	83.6	
2 アニメ雑誌や同人誌に投稿する	1.8	1.5	4.0	14.0	78.7	
3 友だちにマンガを描いてあげる	2.2	2.1	5.1	16.9	73.7	
4 友だちや先生の似顔絵を描く	4.2	3.8	8.9	18.5	64.6	
5 アニメ化されたレコードを聞く	6.5	6.1	13.4	25.4	48.6	
6 自作のマンガを描く	6.9	4.4	9.7	21.6	57.4	
7 マンガのプロマイドを手帳や下書きに入れる	7.6	6.3	10.2	18.5	57.4	
8 アニメ雑誌を読む	8.1	5.2	10.9	19.9	55.9	
9 アニメのキャラクター商品を持つ	9.9	8.1	12.8	21.8	47.4	
10 マンガのポスターを部屋にはる	10.5	6.8	13.3	17.8	51.6	
11 アニメ化された映画を見る	10.5	10.4	17.9	26.5	34.7	
12 マンガ雑誌の付録を大切にする	11.3	8.9	15.3	23.3	41.2	
13 ノートなどにマンガのらく書きをする	17.1	11.6	17.2	28.4	25.7	
14 アニメ化されたテレビを見る	22.6	21.8	25.6	16.6	13.4	
15 マンガの単行本を集めること	24.2	13.8	18.9	18.3	24.8	

○ = 最頻値

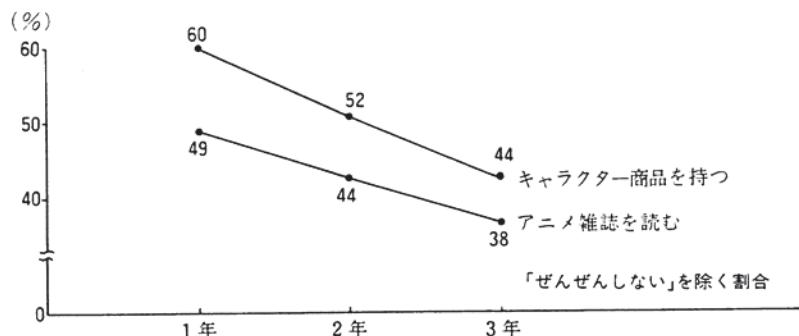
(表14) マンガについての行動×属性

→学年が上がるにつれて、マンガ離れ

(%)

			よくする	わりとする	まるする	あまりしない	せんぜんしない
アニメ雑誌を読む	学年	1年	8.1	6.1	13.3	21.1	51.4
		2年	9.0	5.1	9.1	20.3	56.5
		3年	6.0	3.6	10.8	17.1	62.5
	性	男 子	9.6	6.0	11.4	18.2	54.8
		女 子	6.6	4.2	10.3	21.8	57.1
	勉 強	苦 手	8.9	4.8	8.7	16.7	60.9
		やや苦手	7.3	6.4	13.1	21.5	51.7
		やや得意	7.4	4.9	10.4	24.8	52.5
		得 意	8.6	6.2	11.7	17.9	55.6
	進 路	高 校	5.7	5.2	10.5	20.5	58.1
		短 大	8.1	5.8	9.2	23.0	53.9
		大 学	9.7	5.3	12.3	18.4	54.3
		むずかしい大学	11.9	1.5	7.2	19.6	59.8
キャラクターアイコンを持つ	学年	1年	11.1	10.9	15.3	22.3	40.4
		2年	10.4	7.4	11.1	22.6	48.5
		3年	6.5	5.6	12.3	19.1	56.5
	性	男 子	10.7	9.4	14.1	21.1	44.7
		女 子	8.9	6.9	11.4	22.4	50.4
	部活動	運動部	9.1	7.8	13.9	22.4	46.8
		サボる	11.2	8.8	11.5	22.2	46.3
		文 化 部	8.2	9.0	14.2	19.4	49.2
	進 路	高 校	8.2	6.0	11.8	23.7	50.3
		短 大	8.6	10.5	12.4	22.2	46.3
		大 学	11.9	8.8	14.9	20.9	43.5
		むずかしい大学	14.1	5.7	11.5	19.3	49.4

(図3) マンガについての行動×学年
→マンガに熱中するのは1年



から自発的にコミットはしない。こうした傾向はマンガだけでなく、音楽についても指摘できる。中学生たちの音楽好きなのは、すでに指摘した通りだが、得意な楽器を持っている生徒は、表15のように全体の中で3分の1強にすぎない。そして、得意といっても女子がピアノを楽譜をみながらひくという程度が大半を占める。

若者というと、キーボードやギターを片手にニューサウンドをひく姿をイメージにおくが、残念ながらそれはごく少数の生徒たちにあてはまるにすぎない。なお、表中の(2)腕前が「プロに近いつもり」の子は中学生の21.6%を占めるように錯覚しやすいが、これは「得意の楽器がある」の23.6%を100としての値なので、これを全体の中に戻して計算すると、

$$\text{男子 } 23.6\% \times 21.6\% \rightarrow 5.1\%$$

$$\text{女子 } 48.1\% \times 1.1\% \rightarrow 0.5\%$$

となる。つまり、仮に40人学級の場合、クラスの男子の1人くらいが、楽器に自信を持っている感じになろう。

実際に、音楽についての具体的な行動をとっている生徒は必ずしも多くはない。表16によれば、コンサートへ行ったり、ファンクラブへ入ることはめったになく、「かなり

している」のはダビングくらいだという。もっとも、表17によると、音楽についての行動は、学年が上がるにつれて積極性を増す。学年とともに傍観者としての傾向が強まったマンガと異なり、音楽はもうすこしかかわりを持ちたい気持ちを抱かせるのであろうか。それだけ、音楽好きの生徒が多い証しとなるのかもしれない。

なお念のために、いくつかの曲名を示して、知っているかどうかをたずねてみた。結果は表18に示した通りで、生徒たちがよく知っているのは、「ディザイア」(中森明菜)や「じゃあね」(おニャン子クラブ)などのヒット曲に限られ、ちょっと前に流行した「いとしのエリー」が男女平均で4割、ニューミュージックの古典「神田川」、さらにビートルズの傑作「ヘイ・ジュード」などは「ぜんぜん知らない」がおよそ6割を超える。

おとなにとって、3~4年前はつい昨日のできごとだが、中学生にとっては小学生の頃にあったことで、自分と関係のないことになる。したがって「いとしのエリー」を知らない生徒が多いのもやむをえない気もする。そういうものの、表18を素直に読みとるなら、中学生たちが音楽好きといつても、それは、ヒットパレードの範囲にとどまっている印象

(表17) 音楽についての行動×属性

→学年が上がると、それなりの行動を

(%)

コンサートへ行く	性	進路	して い る		し て い な い	
			いつも	かなり	あまり	ぜんぜん
			1 年	2 年	3 年	
レコード・テープの貸し借り	性	高 校	0.4	1.7	18.4	(79.5)
		短 大	2.4	3.0	20.8	73.8
		大 学	1.9	(5.3)	23.6	69.2
	進路	むずかしい大学	2.6	1.6	18.8	77.0
		1 年	9.5	22.3	26.4	(41.8)
		2 年	19.3	26.0	29.6	25.1
		3 年	23.3	(32.7)	29.1	14.9
	性	男 子	13.8	20.4	28.6	37.2
		女 子	19.8	32.0	28.2	20.0
		高 校	15.4	25.8	28.4	30.4
		短 大	22.2	27.5	29.0	21.3
	進路	大 学	14.7	28.0	27.4	29.9
		むずかしい大学	16.1	20.3	24.5	39.1

(表18) 中学生たちの知っている曲

→知っているのは「ディザイア」

曲目	尺度		1.ぜんぜん 知らない		2.曲が わからない		3.曲はわかるが 歌手を知らない		4.曲も歌手も 知っている		(%)
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
じゃあね	18.6	3.9	8.4	4.6	8.2	2.4	64.8	89.1			
ディザイア	21.1	5.7	6.5	3.5	4.0	1.6	68.4	89.2			
悲しみにさよなら	21.2	4.6	9.5	4.0	6.9	3.0	62.4	88.4			
いとしのエリー	51.0	31.8	17.4	34.5	8.5	1.6	23.1	32.1			
卒業写真	66.4	61.8	14.6	19.3	9.2	6.5	9.8	12.4			
神田川	72.9	69.4	13.9	17.7	7.0	7.2	6.2	5.7			
ロック・ミー・アマデウス	73.5	75.5	8.3	10.5	6.3	6.9	11.9	7.1			
ピーツ・ソー・ロンリー	78.1	79.1	7.3	9.9	5.5	5.2	9.1	5.8			
キリエ	77.8	80.5	6.9	7.6	3.6	4.9	11.7	7.0			
オネスティ	82.1	87.5	6.7	6.1	4.1	3.0	7.1	3.4			
ヘイ・ジュード	72.8	74.1	6.9	6.8	3.8	5.7	16.5	13.4			

2. マルチ・メディアと主体性

こう見えてくるとマンガや音楽を手がかりにする限り、マルチ・メディアに対する生徒たちの反応は積極的なかかわりに乏しく、与えられるままに、対象と時を過ごすかたちが多いのに気づく。

そうした意味では、マルチ・メディアとの接触が受身なのは否定しがたいように思われるが、そのさい受身のかたちが問題となる。

つまり、マス・メディアに操られ、主体的な判断を持てない今まで単に受容しているのか、それともその生徒なりの判断を下し、取捨選択の過程を通して、マスコミとふれ合っているのかという問題である。

表19に、テレビについての生徒たちの評価を示した。「テレビを通して、人々の教養が豊かになった」(7)とは思わないが、かといって、「不正確な情報」(5)ということもない。「広い世界のできごと」(3)を、「すばやく」(2)伝えてくれる。それになんといっても、「楽しい」(1)から、「テレビがなくなったほうがない」(10)とはまったく思わないという評価である。

テレビが果たす役割を過大に評価しているわけでもないし、そうかといって過小視していることもない。長所短所をふまえたかなり成熟したテレビ観のように思える。

そして、マンガについても表20に掲げたように「ドラえもん」や「オバケのQ太郎」に親しみを感じているほか、男子は『北斗の拳』のケンシロウ、女子は『タッチ』の達也や南にあこがれを抱いている。しかし、マンガの主人公と精神的な交流の認められるのはこうした事例に限られ、その他の項目についてはそうした気持ちにならないと答えている。

したがって、生徒たちがマンガを見ているといっても、それはあくまで気晴らしの対象であって、それ以上にマンガからの影響を受けることは少ないという。

そう考えてみると、生徒たちはそれなりに節度を持って、マルチ・メディアに接してい

るのがわかる。つまりマルチ・メディアへ積極的にかかわることはないが、かといってメディアのいうまに動くこともない。自分なりに判断して、マルチ・メディアに接しているのであるから、中学生たちのマルチ・メディアとのかかわりは取捨選択というフィルターを通した上での受容とみなすのが妥当のように考えられる。

もちろんそう思ってはいても、マルチ・メディアの巨大さにのまれて、取捨選択が機能しにくいのが現実の姿なのかもしれない。そこで、次の章ではもう少しくわしく生徒たちの心の中に踏みこんでみたいと思う。

(表19) テレビについての見方

→ テレビは役に立つし、なくなったほうがよいとは思わない

(%)

項目	尺度	とても そう思う	わりと そう思う	なんとも いえない	あまりそ う思わない	ぜんぜんそ う思わない
1	テレビは、楽しいものであればよ い	28.5 52.6	24.1	30.1	13.2 17.3	4.1
2	テレビは、世の中のできごとを早 く知るのに役に立つ	23.9 73.4	49.5	18.9	5.8 7.7	1.9
3	テレビを通して、世界のことを知 ることができる	23.8 66.8	43.0	23.5	7.1 9.7	2.6
4	テレビで学校以上の勉強もできる	7.8 25.4	17.6	36.3	23.2 38.3	15.1
5	テレビの報道は、不正確な感じが する	7.3 22.8	15.5 41.7		26.1 35.5	9.4
6	テレビはつまらないことばかり報 道している	6.3 17.2	10.9	32.0	35.2 50.8	15.6
7	テレビを通して、教養が豊かにな った	5.7 20.9	15.2 50.2		19.1 28.9	9.8
8	テレビは、大きわぎしすぎる	5.5 25.5	20.0	35.1	26.0 39.4	13.4
9	テレビは、人々をだらしなくする	3.1 11.8	8.7	37.6	34.5 50.6	16.1
10	テレビは、なくなったほうがよい	1.1 2.3	1.2	11.6	17.4 86.1	68.7

(表20) マンガに対する行動

→ それほど心を寄せていない

			とても そう思う	かなり そう思う	まあ そう思う	あまり そう 思わない	ぜんぜん そう 思わない	(%)
順位	マンガ名	性別						(%)
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1	『ドラえもんやオバケのQ太郎が自分の家にいたらいとい』	男子	(36.1)	6.7	16.8	14.0	26.4	
		女子	(39.2)	13.0	18.7	13.0	16.1	
2	『北斗の拳』のケンシロウのように、強くなりたい	男子	(27.8)	6.3	21.6	21.1	23.2	
		女子	6.7	2.5	11.6	24.4	(54.8)	
3	『キン肉マン』の下品なところはきらいだ	男子	22.3	7.8	14.1	26.9	(28.9)	
		女子	26.8	8.8	18.8	(29.0)	16.6	
4	『タッチ』の達也と南のような関係にあこがれる	男子	22.6	6.1	19.5	(27.4)	24.4	
		女子	(30.5)	12.2	23.8	21.3	12.2	
5	『ハイスクール！奇面組』の仲間になりたい	男子	19.8	3.9	11.1	24.0	(41.2)	
		女子	18.0	8.9	14.3	24.3	(34.5)	
6	『キャプテン翼』を読むと、サッカーをやりたくなる	男子	16.7	6.5	15.5	27.0	(34.3)	
		女子	10.7	7.7	14.3	25.6	(41.7)	
7	『めぞん一刻』の一刻館の住人になりたい	男子	15.0	3.3	8.0	23.3	(50.4)	
		女子	14.2	6.8	13.1	27.5	(38.4)	
8	『うる星やつら』のラムちゃんと、友だちになりたい	男子	12.5	3.3	8.6	22.7	(52.9)	
		女子	15.1	6.3	15.9	27.7	(35.0)	
9	『キン肉マン』にあこがれる	男子	11.2	1.9	11.7	25.7	(49.5)	
		女子	2.9	2.1	8.3	28.3	(58.4)	
10	『ハイスクール！奇面組』の主題歌を歌うことが多い	男子	10.9	4.1	13.1	24.9	(47.0)	
		女子	20.4	17.1	(23.1)	20.3	19.1	
11	『バーリバリ伝説』のように、バイクに夢中になる人たちには反ばつを感じる	男子	8.3	2.5	7.3	22.9	(59.0)	
		女子	3.8	2.0	7.0	28.6	(58.6)	
12	『北斗の拳』のようなマンガは、きらいだ	男子	6.6	2.9	6.8	34.0	(49.7)	
		女子	13.8	7.2	12.7	(40.3)	26.0	

第III章 マルチ・メディアと自己評価



1. 服装の崩れ

中学生とマルチ・メディアとのかかわりの中で、マルチ・メディアは生徒たちの価値観を歪んだものにすると指摘されることが多い。「オレたちひょうきん族」のいたずら、あるいは、おニャン子クラブのセクシーなポーズなどが、中学生たちの生き方に好ましくない影響を与えるという見方である。

もっとも、中学生をトータルとしてとらえたとき、生徒たちはふつういわれているほどに崩れているのではなく、予想以上にきちんとした生活を送っている。

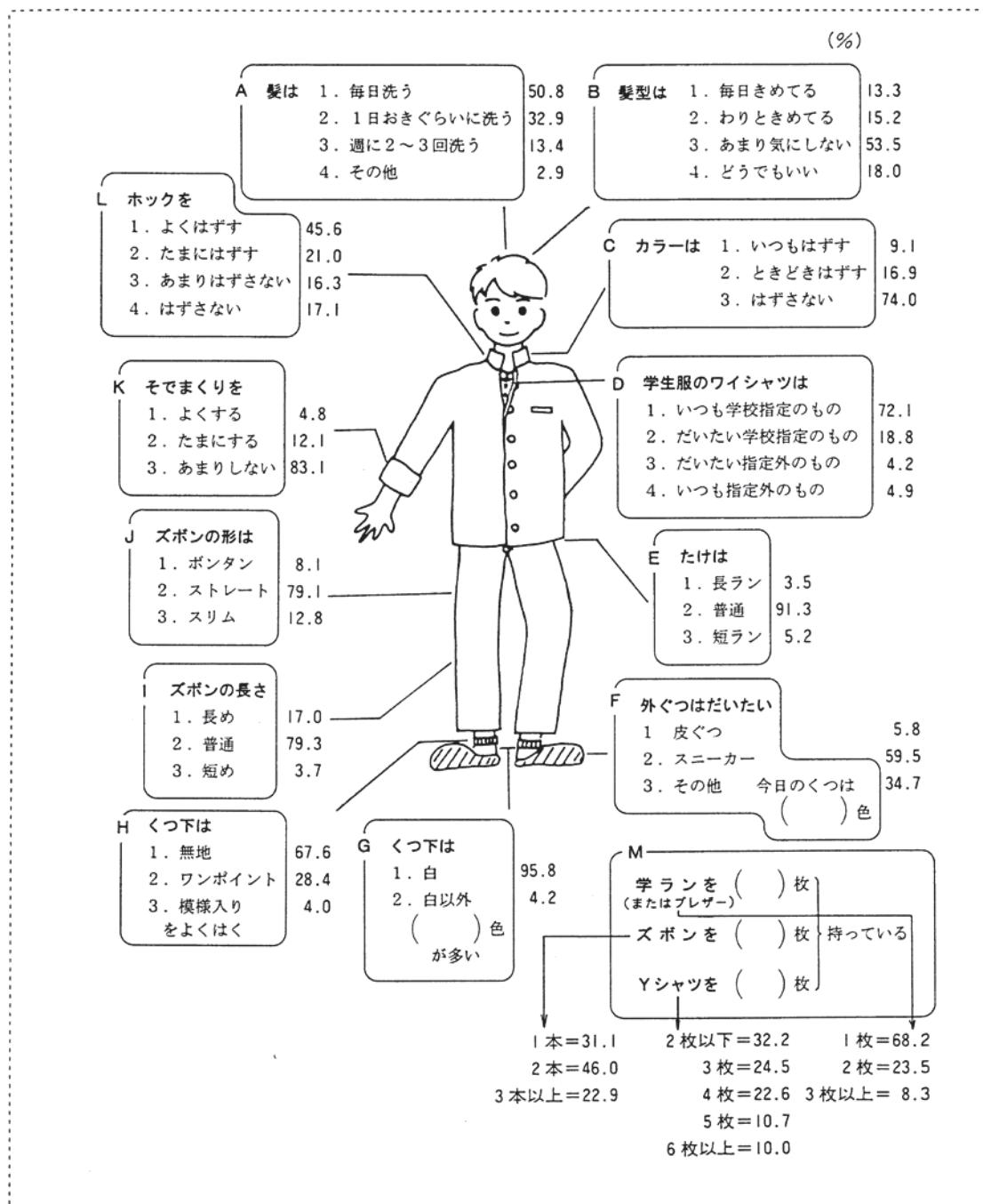
図4に男子の服装についての反応を示したが、8割近くの生徒は学校指定のワイシャツを着て、カラーもはずさず、ズボンの長さも

ほどほどの格好をしている。また、女子の場合も図5が示すように、制服に手を入れることなく、規定通りに名札をつけた服装をしている。

生徒たちが学校に持ってきているものを表21に掲げたが、ハンカチやティッシュペーパーなど、ごくふつうに持参する物を除くと、女の子のリップクリーム、制汗剤あたりにおしゃれの感じがうかがえるのと、スターのプロマイドを持ってくる生徒が女子の14%、キャラクターのカンペーンケースの持ち主が女子の28%、男子の18%にマルチ・メディアの影がうかがえるくらいで、今どきの中学生にしてはむしろ堅実という印象を受ける。

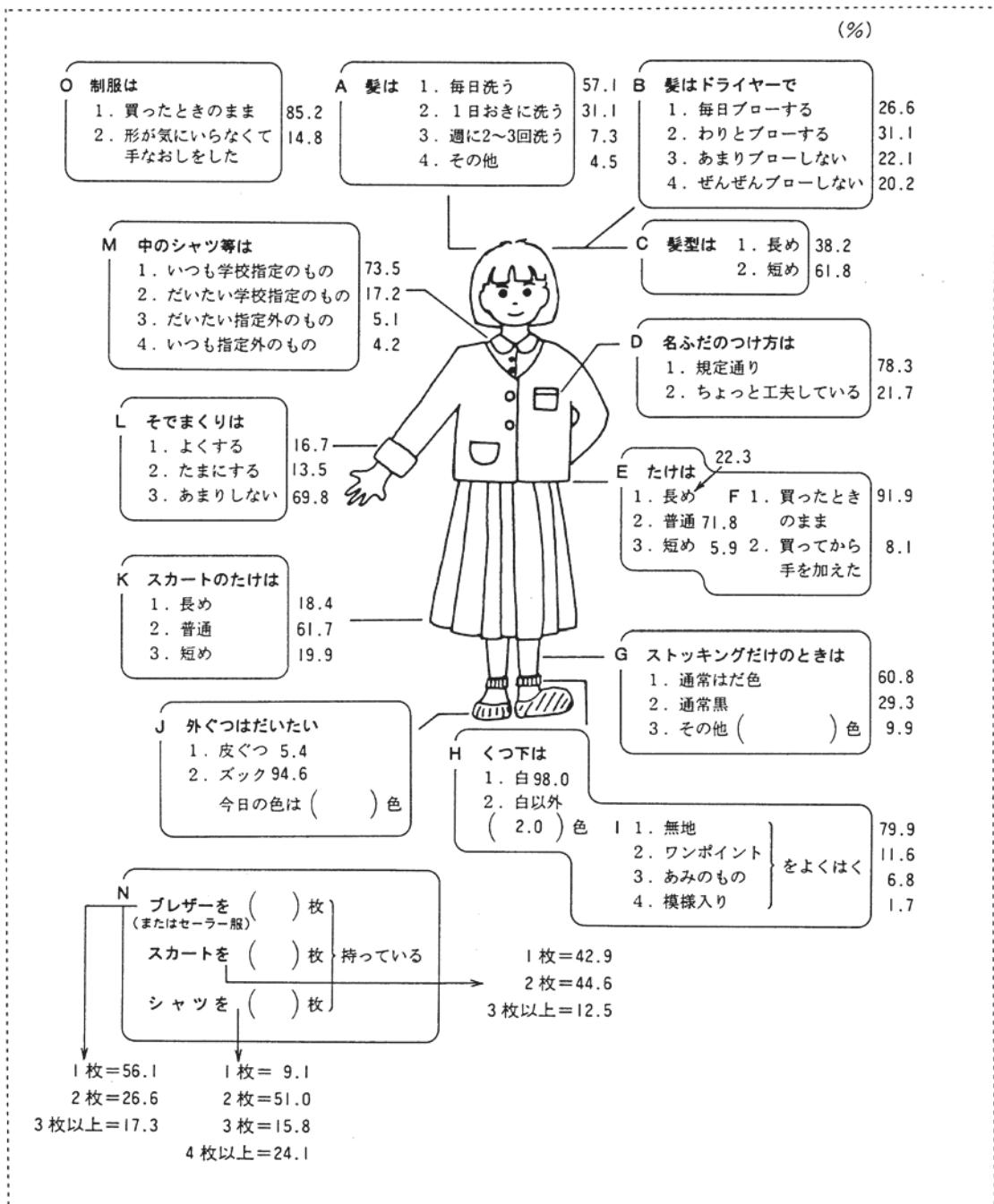
(図4) 男子の服装

→わりときちんとしている



(図5) 女子の服装

→きちんとしようとしている



マスコミから悪い影響を受けることなく、生徒たちは堅実に生活しているというのは、もちろんトータルとしての指摘で、当然のことながら生徒たちの中には、マスコミの影響からかどうかはともあれ、ツッパっていたり

崩れていたりする生徒もいるだろう。そこでマスコミへの接し方を手がかりとして、生徒たちをいくつかに類型化することを試みてみたいと思う。

(表21) 中学生の持ち物

→思っているほどには持っていない

性 持ち物			性 持ち物	(%)	
	男 子	女 子		男 子	女 子
1 ハンカチ	64.0	96.5	8 スターのプロマイド	8.9	14.3
2 ティッシュペーパー	53.0	80.3	9 ストッキング	3.4	1.0
3 キーホルダー	18.9	39.4	10 リップクリーム	2.8	22.3
4 キャラクターの カンベンケース	17.6	28.3	11 マウスピッpet (口臭消し)	2.7	5.4
5 サブパック	14.5	12.3	12 だてメガネ	2.4	1.5
6 つぶしたかばん	11.0	16.0	13 8×4などの制汗剤	1.4	9.8
7 くし、ブラシ	9.0	50.3	14 ハンドクリーム	1.4	8.9

2. 行動面からのタイプ分け

もちろん、マルチ・メディアに対する行動の仕方といっても、すでにふれた通りメディアだけでも、映像、音声、活字と多様な上に、テレビとのかかわりについてもさまざまな側面が考えられよう。そこで主として、生徒たちの行動に着目して、表22のような21の項目を提示し、自分がその通りかどうかをたずねてみた。

全体としてみると、「授業のノートをきちんととっている」(1)が、「歌手のマネは得意でない」(2)し、「マンガを描くのは好き」(20)ということもない。もちろん、「制服に手を加える」(15)こともないなどすでにふれた通りのまじめな生徒像がうかんでくる。

しかし、それはトータルとしての話で、当

然生徒によって反応の開きが予想されるので、そうしたタイプ分けを数量化III類を活用して試みることにしたい。

表22の数値は、軸ごとのカテゴリー・ウェイト表だが、表23に表22で使った21の項目についての属性別の分析結果を示した。学年別に着目すると、冗談が好きで体育祭になるとはりきる1年生から、占いを気にし音楽好きの3年生へと、子どもからおとなへの変化が認められる。また、マンガ字の好きな女子、車に強い男子といった性差も感じられる。そして、むずかしい大学を目指す生徒はノートをきちんととっているが、学業不振ぎみの生徒は制服に手を加えるなどのツッパリの傾向を強めるなどが表れている。こうした変化を

(表23) 行動面での自己評価×属性

→冗談を言う1年から占いにこる3年へ

(%)

項 目	属 性	学 年			性		進 路			
		1 年	2 年	3 年	男 子	女 子	高 校	短 大	大 学	むずかしい 大 学
1 授業中のノートは、きちんととっている		40.7	42.8	43.3	37.2	47.3	36.5	46.5	42.9	51.0
2 ファミコンやパソコンなどを使える		33.3	> 29.5	> 18.3	(42.7)	13.8	28.2	25.1	27.3	41.7
3 好きな歌手の新曲ができると、レコードを買ったりする		22.3	< 29.4	< 38.5	25.1	32.6	29.1	32.5	26.6	25.5
4 友だちと遊んでいるなら徹夜も平気だ		13.7	20.2	22.4	15.7	21.3	20.6	19.4	16.9	17.2
5 好きな作家の本は、たくさん読んでいる		17.9	19.1	15.4	14.4	21.6	15.1	20.3	17.6	21.9
6 毎週・毎月、占いは見ている		13.5	< 15.9	< 17.8	5.9	(25.6)	16.6	(21.3)	10.9	10.9
7 本やノートにらく書きをする		12.9	16.1	11.3	14.4	13.7	13.1	14.9	11.7	18.2
8 冗談を言うのがうまい		15.4	> 12.3	> 8.9	14.8	10.6	14.6	11.3	10.5	18.6
9 友だちと遊びに行った先で、新しい友だちができる		12.7	11.8	10.9	11.3	12.6	13.7	13.3	7.8	16.8
10 体育祭や文化祭になるとはりきる		15.5	> 10.2	> 5.9	9.8	12.6	10.3	12.6	9.0	15.5
11 マンガ字を書く		7.3	12.2	11.5	6.1	(15.0)	11.7	13.3	6.8	8.9
12 人前でも好きな歌は歌える		8.4	10.7	10.7	7.8	12.2	12.1	11.6	6.0	11.5
13 その辺を走っている車の車種・メーカーがわかる		9.2	9.8	9.9	(16.9)	2.2	9.0	2.3	9.3	19.4
14 外国で人気のある歌手がわかる		6.0	10.1	10.9	10.9	6.8	5.7	10.7	9.1	13.6
15 制服に手を加えるなど、かっここうを気にする		5.1	< 8.9	< 10.1	8.3	7.3	(10.5)	8.5	3.9	8.2
16 外人に道をきかれても、何とか教えられる		7.5	8.4	6.5	11.1	4.4	5.7	7.2	5.5	20.1
17 けっこいい線までできる楽器がある		8.2	7.4	7.5	7.8	7.7	6.5	7.5	5.8	16.8
18 「レモン」などは、気にして見ている		3.2	< 8.2	< 13.3	4.2	(11.0)	7.0	(11.6)	4.9	5.7
19 ケンカは誰にも負けない		6.9	5.7	5.5	7.7	4.5	7.1	4.9	3.7	10.8
20 マンガを描くのは好きで、けっこううまい		5.9	> 5.4	> 4.1	7.0	3.6	5.2	3.4	4.2	10.5
21 歌手や芸能人のものマネができる		4.1	6.3	4.1	4.9	5.4	5.9	5.5	3.3	7.3

「まったくその通り」の割合

トータルとしておさえてみよう。

表24に、各軸についてカテゴリー・ウェイトの大きな項目を7位まで抜き出してリストアップしてみた。

I軸はプラスの方向に、なにごとであれ「できる」、マイナスは「できない」が位置しているから、これを「積極（できる）」と「消極（できない）」と名づけてみたい。

そしてII軸は、プラスが「車種がわかる」や「ケンカが強い」などの男性的な傾向、マ

イナスが「『レモン』を読む」「マンガ字を書く」などの女性的な傾向を示しているが、もうすこし他のアイテムにも着目し、プラス＝「外人に道を教える」、マイナス＝「読書が好き」などで、外向と内向の軸としておさえてみたい。

またIII軸は、プラスにマンガ、マイナスに雑誌がからんでいるので、マンガ——活字の軸と評価したいと思う。

(表24) 行動面での自己評価(カテゴリー・ウェイト表)

		I 軸	II 軸	III 軸	
ア ラ ス	1	芸能人のマネ	3.369	車種わかる	3.647
	2	人前で歌	2.693	ケンカ強い	3.508
	3	『レモン』を読む	2.685	外人に道	3.007
	4	外国の歌手わかる	2.405	マンガうまい	2.532
	5	ケンカ強い	2.377	冗談うまい	1.866
	6	マンガうまい	2.108	ファミコン	1.695
	7	制服加工	2.073	芸能人のマネ	1.225
マ イ ナ ス	1	ダビング	(-) -0.929	『レモン』を読む	-3.207
	2	友と徹夜	(-) -0.811	マンガ字	-2.604
	3	友ができる	(-) -0.764	ファミコン	(-) -1.462
	4	授業まじめ	(-) -0.723	読 書	-1.142
	5	冗談うまい	(-) -0.694	ダビング	-1.045
	6	人前で歌	(-) -0.653	友と徹夜	-1.044
	7	ノートらく書き	(-) -0.612	車種わかる	(-) -0.856

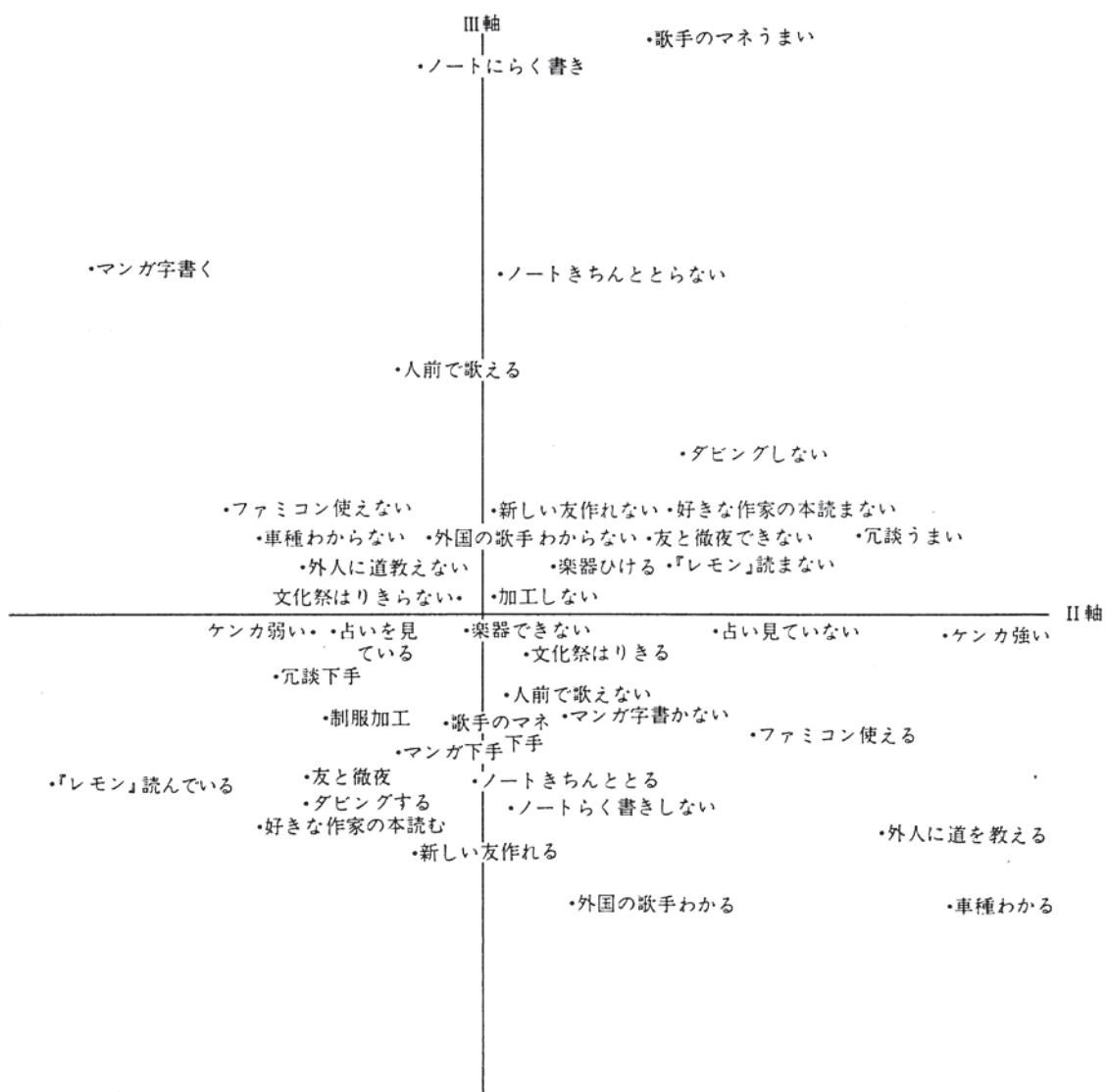
表中の(ー)は「そうでない」(例、ダビングは[ない]の意味)

	プラス マイナス
I 軸	積極——消極
II 軸	外向——内向
III 軸	マンガ——活字

そして、II軸、III軸を交差させた平面上にそれぞれのアイテムをドットさせると、図6のような関係が得られる。

なお、II軸とIII軸を交差させると、4つの

(図6) 行動面での自己評価



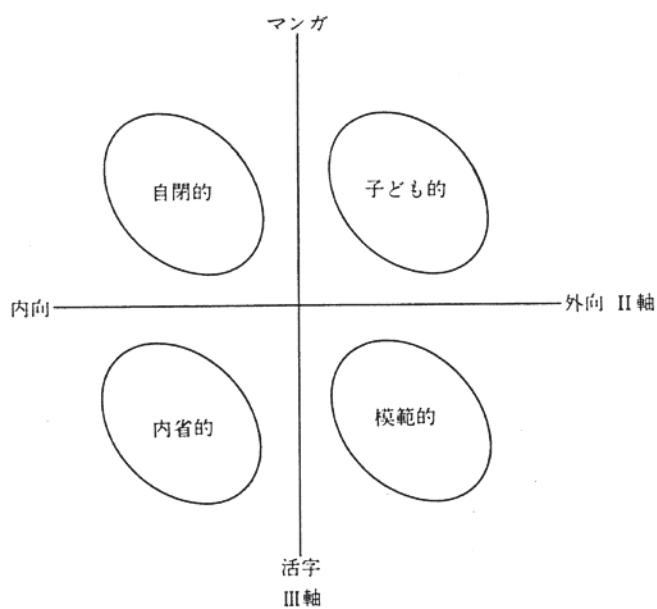
局面に図7のような意味づけが可能になる。まず、第1象限にマンガが好きで外向的で明るい“子どもの”タイプの生徒が位置する。そして第2象限は内向的でひとりきりでマンガを読むような“自閉的な”タイプとなる。さらに、第3象限には、静かに本を読むような内省的な生徒が予想され、最後の第4象限に、本が好きで社会性もある“模範的”な中学生像がうかんでくる。

そこで、この図7の上にいくつかの属性をドットさせることにしたい。属性別のサンプル・スコアは表25にくわしいが、これを表面上に位置づけると、図8の通りとなる。

しかし、これではわかりにくいので、図7

と図8とをダブらせた形で、一つの合成図を作成すると、図9のような結果になる。外向的でマンガの好きな“子ども”のような1年生がやがて3年生になるにつれて、マンガ離れをして、内向的で活字に目を通すような“内省的”な若者へ変身していくという構図である。中学生時代をトータルとしてとらえるのにはわかりやすい変化のように思われるが、さらに、成績の上位の生徒は本好きであると同時に、社会性もあって“模範的”だが、成績が下位になるにつれて自信が持てなくなるためか、ひとりでマンガを読むような“自閉的”な傾向を強めるという結果も得られている。

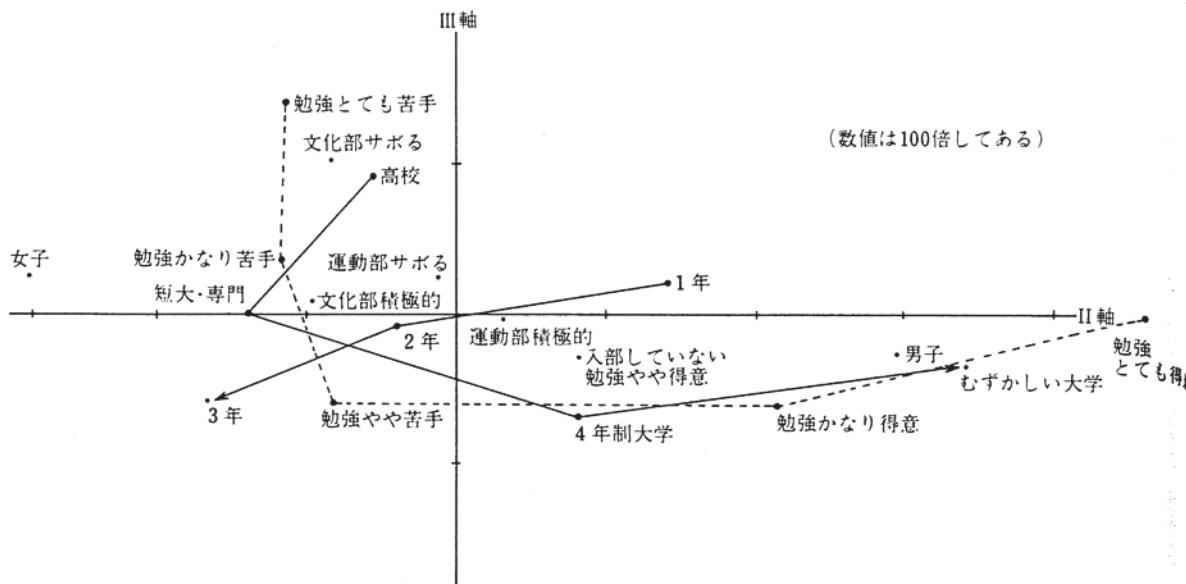
(図7) III類による類型



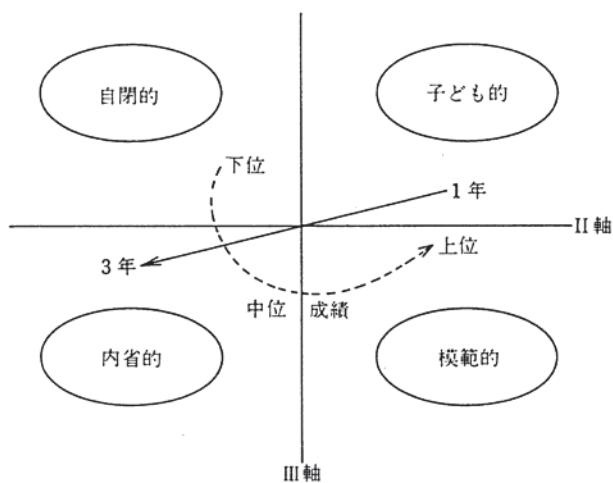
(表25) 属性別サンプル・スコア(平均)

		I 軸	II 軸	III 軸
学年	1 年	-0.0151	0.0698	0.0111
	2 年	0.0125	-0.0175	0.0065
	3 年	-0.0018	-0.0755	-0.0319
性	男 子	-0.0638	0.1485	-0.0145
	女 子	0.0645	-0.1489	0.0148
部活動	入っていない	-0.0716	0.0306	-0.0101
	運動部 { 積極的 サボる }	-0.0076 0.0097	0.0173 -0.0051	-0.0070 0.0082
	文化部 { 積極的 サボる }	0.0352 0.0047	-0.0629 -0.0378	0.0045 0.0597
	高 校	-0.0108	-0.0279	0.0446
進路	短大・専門	0.0591	-0.0741	-0.0036
	大 学	-0.0581	0.0360	-0.0325
	むずかしい大学	0.0651	0.1703	-0.0237
ナウさ	まったく	-0.1625	0.0450	0.0255
	ちがう かなり	-0.1704	0.0086	-0.0059
	や や	-0.0367	-0.0345	0.0005
	そ う { や や ま あ }	0.1651 0.3672	-0.0408 -0.0250	-0.0245 0.0138
	と て も	0.5279	0.1933	-0.0151
勉強できる	まったく	0.0024	-0.0539	0.0657
	ちがう かなり	-0.0577	-0.0538	0.0154
	や や	-0.0204	-0.0355	-0.0327
	そ う { や や ま あ }	0.0029 0.0874	0.0727 0.1185	-0.0271 -0.0286
	と て も	0.2445	0.2493	0.0053

(図8) サンプル・スコア



(図9) サンプル・スコア略図



3. 自己評価とのかかわり

図9のように見えてくると、マルチ・メディアへのかかわりといつても、どんな生徒なのかによって、かかわり方が異なっているのがわかる。つまり成績を例にすれば、上位の生徒はメディアと距離をおいたつき合いをしているが、下位になるにつれて、マルチ・メディア、なかでもマンガに埋没していく。そう

した生徒にとってマルチ・メディアは、エスケープする対象として機能しているのであろうか。

そこであらためて自己評価を手がかりとして、中学生の姿を探っていくことにしたい。

表26に自己評価を掲げたが、中学生たちは勉強はともかく、友だちが多く、心がやさし

も得

(表26) 自己評価

→ 勉強はともかく、友が多くの心はやさしいつもり

項目	尺度	(%)							カテゴリー・ウェイト表		
		まったく ちがう	かなり ちがう	やや ちがう	やや そう	まあ そう	とても そう	I 軸	II 軸	III 軸	
1 友だちが多い		5.5	4.5	13.2	(29.2)	26.9	20.7	-1.5964 0.4535	0.8833 -0.2537	3.6153 -1.0384	
2 心がやさしい		8.1	8.1	22.2	(27.9)	16.0	17.7	-1.2238 0.7728	-1.2746 -0.8049	1.1204 -0.7075	
3 体力がある		14.2	10.6	19.8	(23.0)	17.4	15.0	-1.0970 0.9039	1.9082 -1.5724	-1.1217 0.9243	
4 運動神経がいい		17.0	12.3	22.1	(23.7)	13.7	11.2	-1.0302 1.1100	1.5423 -1.6617	-0.9181 0.9893	
5 努力型		12.8	13.1	(27.8)	25.0	11.7	9.6	-0.9034 1.0607	-0.9436 1.1079	0.1873 -0.2198	
6 友だちから信頼されている		8.4	7.8	24.9	(34.2)	16.1	8.6	-1.3467 0.9447	-0.5789 0.4061	0.6757 -0.4739	
7 友だちをひっぱる力がある		13.9	13.6	(31.1)	23.2	9.9	8.3	-0.9995 1.4281	0.2245 -0.3208	-0.2598 0.3713	
8 行動力がある		10.8	11.4	(30.5)	26.7	13.7	6.9	-0.9542 1.0887	-0.1329 0.1517	-0.0357 0.0408	
9 先生から信頼されている		20.3	14.9	(30.6)	21.0	6.9	6.3	-0.7728 1.5007	-0.6209 1.2058	-0.7964 1.5467	
10 異性から人気がある		(32.2)	19.5	27.0	11.4	4.1	5.8	-0.4801 1.8613	0.1418 -0.5499	-0.0251 0.0975	
11 ナウいかっこうをしている		22.3	17.3	(30.2)	18.8	6.2	5.2	-0.5232 1.2639	0.4533 -1.0951	1.0326 -2.4945	
12 勉強がよくできる		22.5	17.6	(29.8)	18.9	6.6	4.6	0.5780 1.3424	-1.0356 2.4051	-0.7303 1.6961	

いと自分自身を考えている。そして表27によると、そうしたなかでも特に「むずかしい大学へ入学したい」と思っているような生徒たちが、勉強だけでなく、すべての面で自信を抱いているのがわかる。

すでに、表26に数量化III類の場合のカテゴリー・ウェイトを掲げてあるが、それぞれの軸の数値の大きなアイテムを抜き出すと表28の通りとなる。

ここでは自己評価を答えやすいように、「まったくちがう」から「とてもそう」のかたちでスケール化してあるので、各アイテムとも（-）は自信がある、ことになるのに注意して欲しい。そして、I軸はごく平凡にプラス

が自信がある、マイナスは自信がないとなる。そして、II軸は、プラスは勉強が得意、マイナスは運動神経があって体力に自信があるとなるから、勉強—体力の軸と考えられる。さらにIII軸は、友がない（無印は「そうでない」であるから「友が多い」とはいえない）がプラスで、マイナスはナウく、友が多いので、孤立—群れの軸と評価してみたい。

I軸 自信あり—なし

II軸 勉 強—体力

III軸 孤 立—群れ

この内、II軸とIII軸とを交差させてカテゴリーをドットさせると、図10のような構図と

(表27) 自己評価×属性

→むずかしい大学を目指す生徒は自信を持つ

項 目	属性	学 年			性		進 路			(%)
		1年	2年	3年	男子	女子	高校	短大 専門	大学	
1	友だちが多い	23.5	20.2	17.1	22.8	18.6	19.2	19.1	18.0	(37.3)
2	心がやさしい	16.4	18.2	19.2	22.3	13.1	17.9	16.2	13.4	(32.1)
3	体力がある	13.3	16.1	15.7	20.4	9.5	14.1	11.2	14.5	(28.4)
4	運動神経がいい	10.4	12.3	9.7	17.2	4.9	10.8	7.8	10.3	(21.1)
5	努力型	8.6	11.2	7.7	12.2	7.0	7.8	8.3	7.1	(23.7)
6	友だちから信頼されている	6.8	10.2	8.3	12.7	4.4	8.7	6.4	6.3	(19.8)
7	友だちをひっぱる力がある	6.7	9.8	7.8	12.5	4.0	8.7	4.9	6.9	(19.4)
8	行動力がある	6.4	8.0	5.3	10.5	3.3	5.8	5.1	4.5	(19.6)
9	先生から信頼されている	3.8	7.8	7.4	9.6	2.9	5.0	3.4	4.9	(21.1)
10	異性から人気がある	4.9	6.9	4.9	8.8	2.7	6.6	3.8	4.1	(11.9)
11	ナウいかっこうをしている	2.8	6.4	6.0	6.9	3.3	5.7	4.3	3.4	(9.8)
12	勉強がよくできる	3.6	5.8	3.4	7.6	1.4	3.9	1.5	3.2	(17.1)

数値は「とてもそう」の割合

なる。

なお、この図の意味は図11のようにまとめられよう。つまり、第1象限にひとりで勉強に打ち込むような「受験型」が位置し、第2象限は、ひとりで体をきたえるような「道場型」となる。さらに、第3象限は群れて体をきたえる「部活型」、第4象限は群れて勉強をする「学習塾型」となる。

そして、こうした平面の上にサンプル・スコアをドットさせてみよう。くわしい数値は表29にくわしいが、これをグラフ化すると図12になる。

図11と図12を合成したのが図13だが、全体の傾向は、群れて運動するような「部活型」と、ひとりで勉強してむずかしい大学を目指す「受験型」とに、生徒たちは二分されてい

るのが目につく。

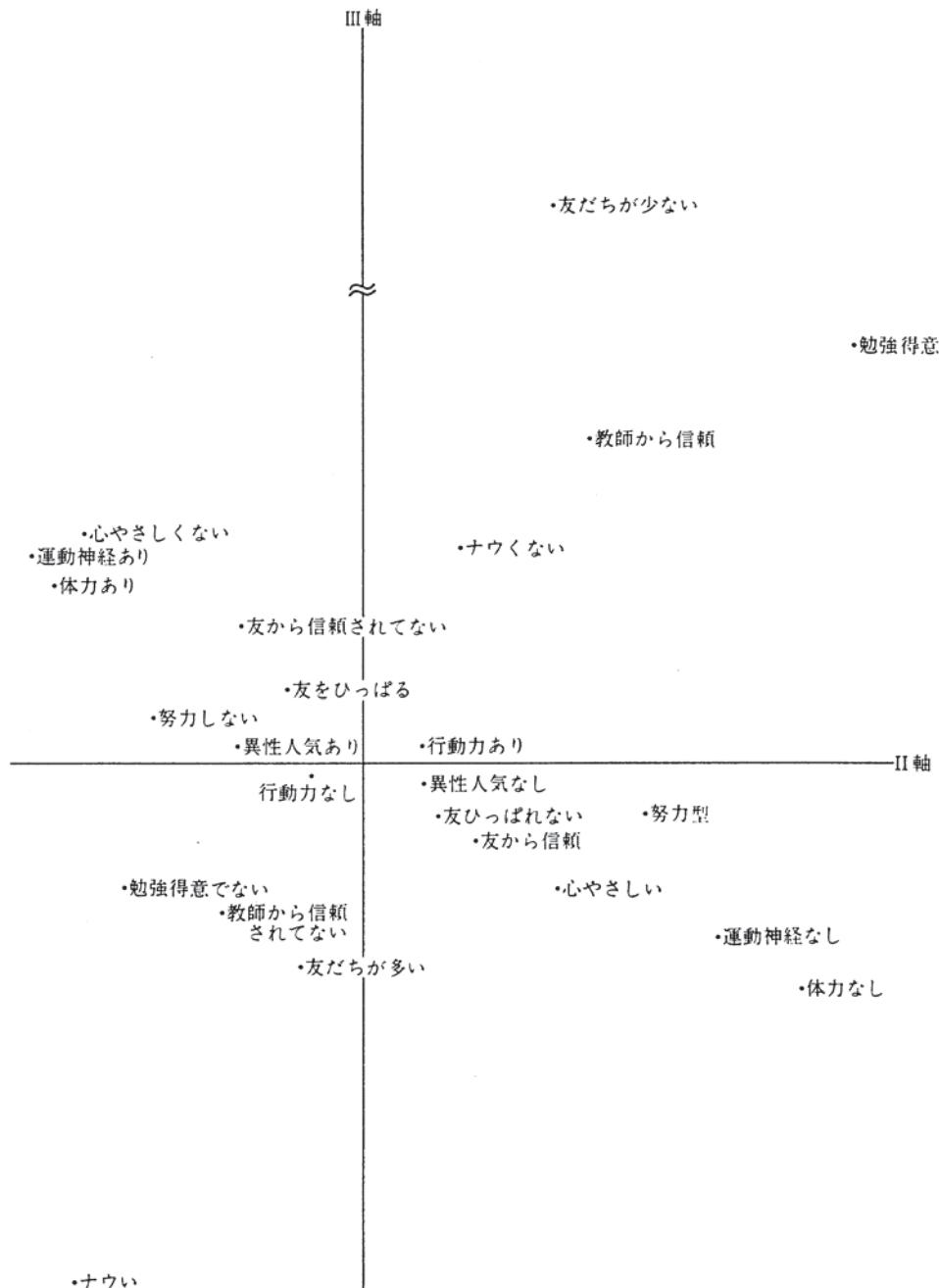
マルチ・メディアを拒否して勉強に打ち込む一握りの生徒と、自信を喪失ぎみでマルチ・メディアに埋没していく多くの生徒とに、中学生たちが両極化している。マルチ・メディアに埋没してしまうのも困るが、かといって、マルチ・メディアへ背を向けるのも人間的でない。ほどよく接するのが理想的なのだが、残念ながらそうした接し方をするにはマルチ・メディアは巨大すぎるのかかもしれない。マルチ・メディアに主体的にコミットするにはどうしたらよいのか。そうした問題が投げかけられたような気がするが、残念ながらマルチ・メディアとのつき合い方は、学校でも、家庭でも、まだ試みられていないのが現状であろう。

(表28) 自己評価のカテゴリー・ウェイト

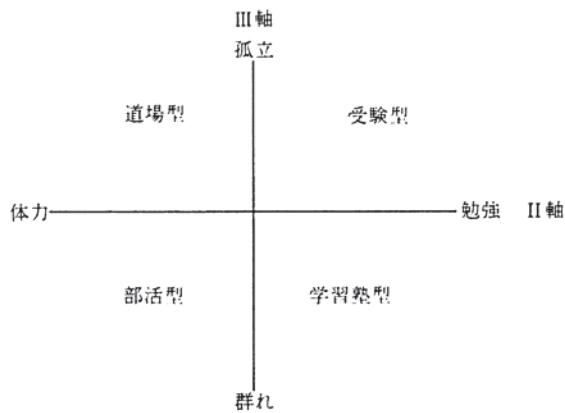
I 軸			II 軸			III 軸		
ア ラ ス	1	異性から (-) 1.8613	勉 強 (-) 2.4051	友が多い	3.6153			
	2	教師の信頼 (-) 1.5007	体 力 1.9082	勉 強 (-)	1.6961			
	3	友をひっぱる (-) 1.4281	運動神経 1.5423	教師の信頼 (-)	1.5467			
	4	勉 強 (-) 1.3424	先生の信頼 (-) 1.2058	心やさしい	1.1204			
	5	ナウい (-) 1.2639	努 力 (-) 1.1079	ナウい	1.0326			
マ イ ナ ス	1	友が多い -1.5964	運動神経 (-) -1.6617	ナウい (-)	-2.4945			
	2	友の信頼 -1.3467	体 力 (-) -1.5724	体 力	-1.1217			
	3	心やさしい -1.2238	心やさしい -1.2746	友が多い (-)	-1.0384			
	4	体 力 -1.0970	ナウい -1.0951	運動神経	0.9893			
	5	運動神経 -1.0302	勉 強 -1.0356	教師の信頼	-0.7964			

(-)は「とても」～「まあ」そう。無印はちがう

(図10) 自己評価



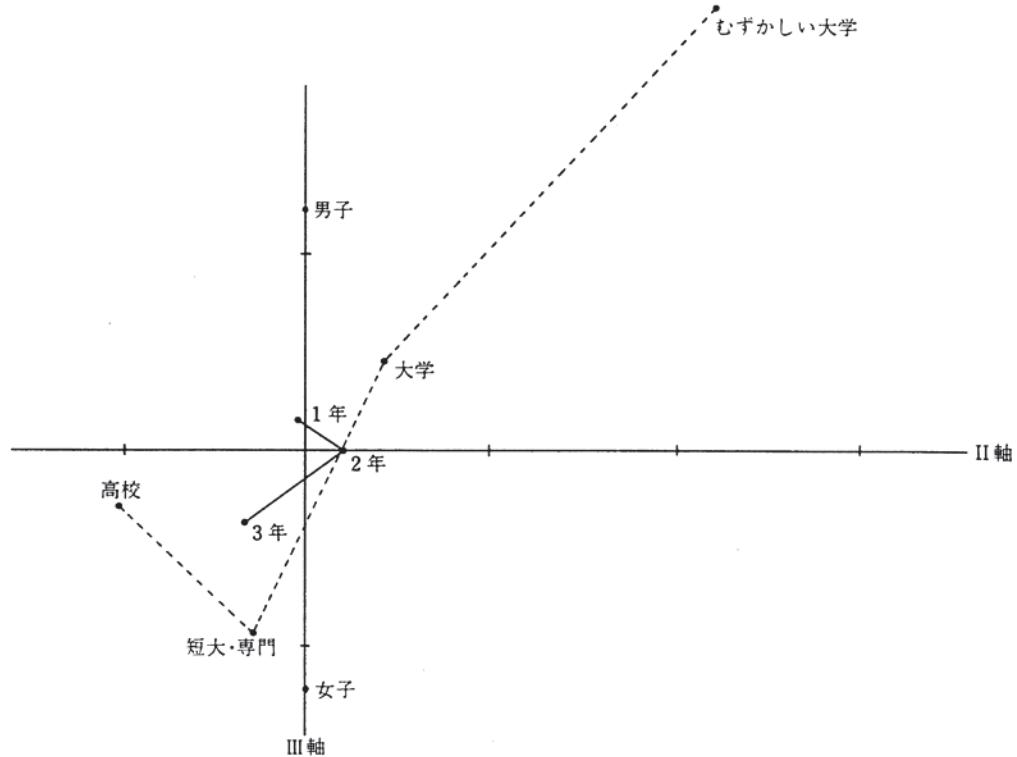
(図11) 自己評価の構図



(表29) 自己評価のサンプル・スコア

		I 軸	II 軸	III 軸
学年	1 年	0.0013	-0.0001	0.0076
	2 年	0.0115	0.0099	0.0012
	3 年	-0.0273	-0.0216	-0.0148
性	男 子	0.0686	0.0008	0.0689
	女 子	-0.0698	-0.0008	-0.0701
部活動	入っていない	-0.1682	-0.0329	-0.0263
	運動部 { 標的 サボる }	0.0826 -0.0757	-0.0192 -0.0487	0.0026 -0.0001
	文化部 { 標的 サボる }	-0.1296 -0.2612	0.1360 0.0788	-0.0034 -0.0054
	高校	-0.0872	-0.0491	-0.0161
進路	短大・専門	-0.0351	-0.0115	-0.0507
	大学	0.0080	0.0226	0.0248
	むずかしい大学	0.3522	0.1157	0.1097

(図12) 自己評価のサンプル・スコアによる図



(図13) 自己評価の枠組

